

3

パソコンを持ち歩く

本章では、パソコンをバッテリー駆動で使用するときに説明します。

1	バッテリーを使う	86
2	バッテリーを節約する	92



① バッテリーを使う

バッテリーを充電して、または充電したバッテリーパックと交換して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

ご購入時は、バッテリーは十分に充電されていません。

本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

☞ バッテリーの充電 ☞ 「1章 4 バッテリーの充電」

☞ バッテリーパックの交換 ☞ 「本節 4 バッテリーパックを交換する」

① バッテリー充電量の確認をする

バッテリー駆動で使う場合、バッテリー充電量を確認しておかないと使用中にバッテリーの充電量が減少し、途中で作業を中断したり、あわててACアダプタを接続することになります。

バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。


● Battery LED で確認する

ACアダプタを接続したとき、Battery LED が緑色に点灯すれば充電完了です。オレンジ色に点灯あるいは点滅した場合は、バッテリーパックの充電が必要です。

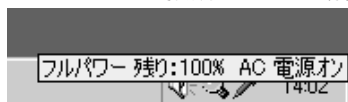
☞ Battery LED ☞ 「1章 4-3 バッテリーに関する表示」

● アイコンで確認する

● Windows 98 / 2000 の場合

タスクバーの省電力アイコン  の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



バッテリー駆動で使用している場合



(表示例)



このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。



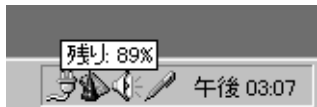
メモ

- ・タスクバーに表示される省電力アイコンの絵は現在使用されている省電力モードにより変わります。
- ・東芝省電力ユーティリティの [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに省電力アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

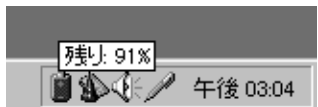
● Windows NT の場合

タスクバーのバッテリーインジケータアイコン ( または ) の上にマウスポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

ACアダプタを接続している場合



バッテリー駆動で使用している場合






(表示例)

また、ダブルクリックすると、バッテリーメーターの画面が表示されます。

② バッテリーの使用時間

電源として使われるバッテリーの使用時間は、充電量や使用状態により多少差があります。

注意 ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。バッテリー (バッテリーパック、時計用バッテリー) を使いきってしまうと、スタンバイ機能 ( )、サスペンド機能 () が効かなくなり、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、一度全バッテリーを充電するために、ACアダプタを接続して充電してください。



・Windows 98 / 2000 のスタンバイ機能、Windows NT のサスペンド機能を実行したいときは、放電しきるまでの時間が短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

バッテリーでの使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。次の時間は目安にしてください。

充電完了の状態で使用した場合






省電力モード	動作時間
ノーマル	約2.5時間

(注) 当社オリジナルプログラムで計測

● 使っていないときの充電保持時間


パソコン本体を使用しないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減少します。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

フル充電した状態で電源を切った場合

パソコン本体の状態	保持時間
スタンバイ ( ) サスペンド ()	約5日間
電源切断 (シャットダウン) 休止状態 ( )	約3週間

● バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

Battery  LED がオレンジ色に点滅する（バッテリーの減少を示しています）
警告音（ピープ音）が鳴る

この場合はただちに AC アダプタを接続し、電源を供給してください。



お願い



- ・長時間使用しないで自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

3 時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、AC アダプタを接続しているときに行われます。普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

状態	時計用バッテリー
電源 ON (Power  LED が点灯)	約 10 時間以上
電源 OFF (Power  LED が消灯)	ほとんど充電しない



メモ

- ・時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

4 バッテリーパックを交換する

警告 ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、指定の製品をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。使用済みのバッテリーパックの処理は、地方自治体の条例または規則に従ってください。



お願い

・Wake up on LAN 機能を有効にした状態でスタンバイ機能を実行し、バッテリーパックを交換するとデータが失われます。
バッテリーパックを交換する際は、Wake up on LAN 機能を無効にして行なってください。

取りはずし / 取り付け

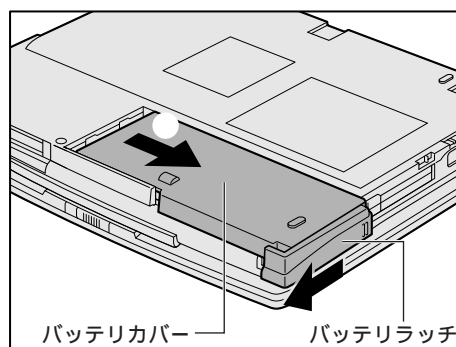
1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

注意 ・バッテリーパックの取り付け / 取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイ機能 (**98** **2000**)、サスペンド機能 (**NT**) を実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。

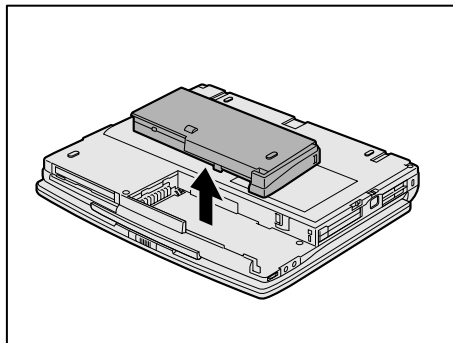
休止状態 (**98** **2000**) を使用すると、再起動にかかる時間が短くて済みます。電源の切り方、および休止状態を使用する方法については、「2章 3 電源を切る」をご覧ください。

☞ スタンバイ / サスペンド機能、休止状態について ☞ 「5章 1 消費電力を節約する」

- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 4 バッテリーラッチを横に押し、バッテリーカバーをスライドさせる

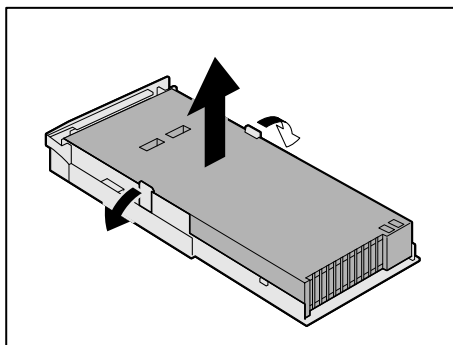


5 バッテリーパックごと、バッテリーカバーを取り出す



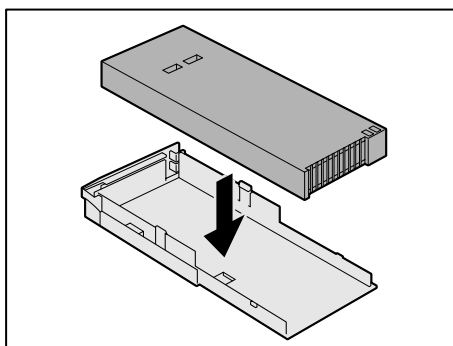
6 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

バッテリーカバーのツメを左右に広げ、バッテリーパックを取りはずします。

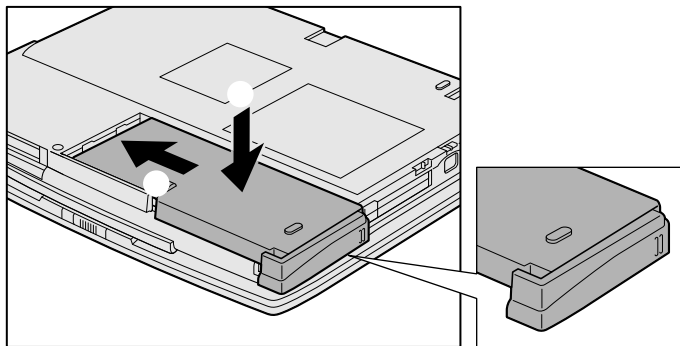


注意 ・バッテリーパックを保管する場合は、ショート防止のために電極せつえんに絶縁テープをはるなどの対策をこうじてください。そのままの状態では保管すると、破裂や火災のおそれがあります。
・本体側の電極に手でふれないでください。故障の原因になります。

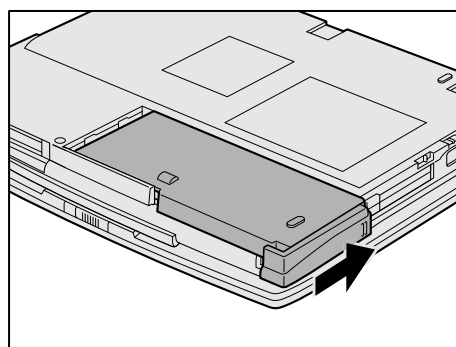
7 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



- 8** バッテリーラッチが右側にあることを確認し、バッテリーパックをコネクタの位置に合わせ、静かに差し込む
新しい、あるいは充電したバッテリーパックを注意して差し込んでください。



- 9** バッテリーラッチをスライドさせ、バッテリーパックを固定する



! 注意 ・バッテリーパックはしっかりと取り付けられているかどうか、必ず確認してください。
正しく取り付けられていないと、持ち運びのときにバッテリーパックがはずれ落ちて、
思わぬケガのおそれがあります。

2

バッテリーを節約する

バッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

バッテリーの充電を完了（フル充電）する

バッテリー駆動で使用した後は、バッテリーを充電しておく

スタンバイ機能（）、サスペンド機能（）、休止状態（）

を活用し、こまめに電源を切る

スタンバイ/サスペンド機能や休止状態とは、電源を切った後、次に電源を入れると、直前の状態を再現することができる機能です。

☞ スタンバイ/サスペンド機能、休止状態について ⇨ 「5章 1 消費電力を節約する」

パネルスイッチ機能を活用し、入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

☞ パネルスイッチ機能 ⇨ 「2章 3 電源を切る」

省電力に設定する

☞ 省電力設定 ⇨ 「5章 1 消費電力を節約する」

4

ハードウェアについて

本章では、各ハードウェアについて説明します。
注意事項を守り、正しく取り扱ってください。

1	周辺機器の取り付けについて	94
2	マウスの接続	95
3	フロッピーディスク装置	97
4	CD-ROM 装置	102
5	PC カード	106
6	増設メモリ	111
7	LAN の接続	115
8	USB 機器の接続	125
9	テレビへの接続	126
10	プリンタの接続	128
11	CRT ディスプレイの接続	129
12	外付けキーボードの接続	132

1 周辺機器の取り付けについて

本章で説明していない周辺機器については、それぞれの周辺機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け/取りはずしの方法は周辺機器によって違います。各節を読んでから作業をしてください。



注意 ・パソコンが動作中に着脱することが認められていない周辺機器を接続する場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。



お願い

- ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・湿度やホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・本製品を改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

● パソコン本体へのケーブルの接続

次の点に注意して、接続してください。

PCカードやコネクタの上下を合わせる

固定用ネジがある場合は、ケーブルがはずれないようにネジを締める



お願い

- ・ケーブルなどを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

周辺機器を使用するときは、このほかに作業が必要なことがあります。また、その必要な作業は、使用するシステムで異なることがあります。それぞれの周辺機器に付属の説明書をご覧ください。

② マウスの接続

本製品では、次のような市販のマウスを接続して使用することができます。
マウスの種類によって、接続するコネクタが異なります。

- ・PS/2 マウス
- ・USB マウス (Windows NT ではサポートしていません)
- ・シリアルマウス

☞ USB マウスの接続 ☞ 「本章 8 USB 機器の接続」

! 注意 ・USB マウス以外のマウスを接続する場合には、必ず電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

① PS/2 マウス

● 取り付け

- 1 PS/2 コネクタに、PS/2 マウスのプラグを差し込む
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んである PS/2 マウスのプラグを持って抜く

② シリアルマウス

● 取り付け

- 1 COMMS コネクタに、シリアルマウスのプラグを差し込む
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んであるシリアルマウスのプラグを持って抜く

● シリアルマウスの設定方法

シリアルマウスを初めて接続するときは、次の手順に従って操作してください。

● Windows 98 / 2000 の場合

パソコン本体の電源を切って、マウスを接続してください。

接続後、パソコン本体の電源を入れると、シリアルマウスが自動的に認識されます。
シリアルマウスとアキュポイント が同時に使えるようになります。

● Windows NT の場合

次の操作を行なってください。

- 1** COMMS コネクタにシリアルマウスを接続する
- 2** パソコン本体の電源を入れる
- 3** [ディスクの挿入]画面で [OK] ボタンをクリックする
- 4** [コピー元]に「C:¥i386」と入力する
- 5** [OK] ボタンをクリックする
「再起動しますか？」のメッセージが表示されます。
- 6** [はい] ボタンをクリックする
パソコン本体が再起動し、シリアルマウスが使えるようになります。

③ フロッピーディスク装置

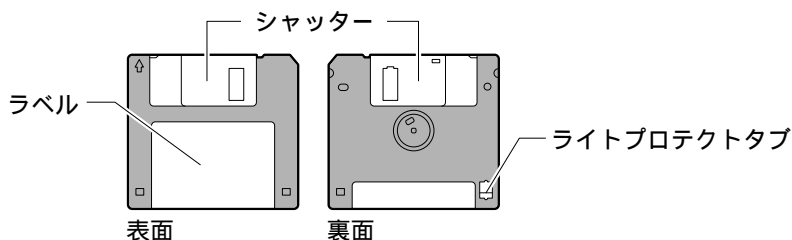
① フロッピーディスク

使用できるフロッピーディスクの種類と、保存できる容量は次のとおりです。

フロッピーディスクの種類	1枚に保存できる容量
2DDタイプ	720KB
2HDタイプ	1.2MB
2HDタイプ	1.44MB

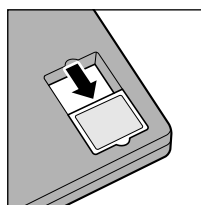
1枚あたりに保存できる容量は、フォーマットのとくに指定します。

フロッピーディスクは、ライトプロテクトタブを移動することにより、誤ってデータを消したりしないようにすることができます。



ライトプロテクトタブの状態、次のようになります。

● ライトプロテクトタブの状態

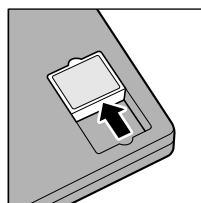


書き込み禁止状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が開いた状態にします。

この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みはできません。

データの読み取りはできます。



書き込み可能状態

ライトプロテクトタブを「カチッ」と音がするまで移動させて、穴が閉じた状態にします。

この状態のフロッピーディスクには、データの書き込みも読み取りもできます。

☞ フロッピーディスクの使用について ⇨ 「日常の取り扱い-フロッピーディスク」

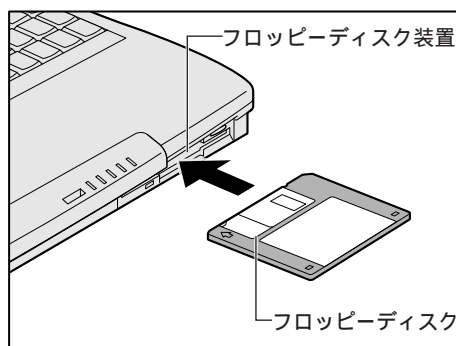
② フロッピーディスクのセットと取り出し

フロッピーディスクをフロッピーディスク装置に挿入することを「フロッピーディスクをセットする」といいます。

*イラストは15インチモデルです。

● フロッピーディスクのセット

- 1 フロッピーディスクの隅にかかっている矢印の向きに合わせて挿入する
「カチッ」と音がするまで挿入します。正しくセットされるとイジェクトボタンが出てきます。

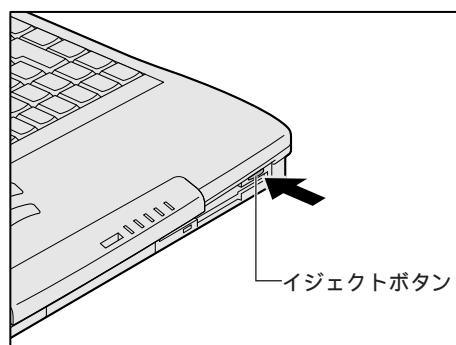


● フロッピーディスクの取り出し



・FDD/CD-ROM LEDが点灯している場合は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れることがあります。

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し出てきます。そのまま手で取り出します。



3 フロッピーディスクのフォーマット

買ってきたばかりの新品のフロッピーディスクは、箱から出してそのまますぐ使うことはできません。使用するシステムにあわせて「フォーマット」という作業を行う必要があります。

フォーマットを行うと、フォーマットを行なったシステムにあわせて、データの記憶や読み出しができるようにトラック番号やヘッド番号などの基本情報が書き込まれます。新品のフロッピーディスクは、どんなシステムに使われるかわからないためフォーマットを行わずに出荷されています。新品のフロッピーディスクを使用する場合は、必ずフォーマットを行なってください。

他のシステムで使われていたフロッピーディスクも、もう1度本製品でフォーマットすることにより、本製品で使うことができます。



お願い

- ・フォーマットを行うと、そのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えます。一度使用したフロッピーディスクをフォーマットする場合は注意してください。

フォーマット方法

Windows でのフォーマット方法を簡単に説明します。詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。



メモ

- ・他社のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクの中には使用できないものがあります。
- ・2HD フロッピーディスクを2DDタイプでフォーマットしたり、またその逆でのフロッピーディスクの使用はできません。正しくフォーマットされているフロッピーディスクを使用してください。
- ・Windows 98 の場合、フォーマット形式は、2DD の場合は720KB、2HD の場合は1.44MB のみになります。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクをセットする
- 2 デスクトップ上の [マイ コンピュータ] アイコンをダブルクリックする
- 3 [3.5 インチ FD (A:)] のアイコンをクリックする
[3.5 インチ FD (A:)] のアイコンが選択され、アイコンの色が反転します。
- 4 [ファイル] メニューの [フォーマット] を選択する

5 フォーマット方法を選択し、フォーマットを行う

未フォーマットのフロッピーディスクを使用して、フォーマットや起動ディスクの作成をする場合、かなり時間がかかることがあります。

98

フォーマット方法を選択し、[開始] ボタンをクリックする
未フォーマットまたはこのパソコンで使用できない形式でフォーマットされているフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。



フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、フロッピーディスクの情報が表示されますので、確認してください。

[フォーマット結果] の内容を確認し、[閉じる] ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

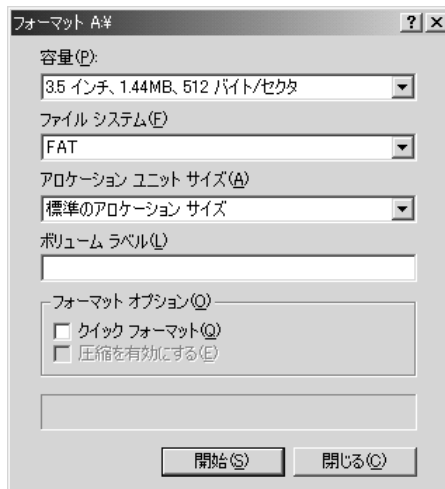
他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順 5 から実施します。

フォーマットを終了する場合は、[閉じる] ボタンをクリックします。



必要に応じて、[容量]や[フォーマットオプション]を設定し、[開始]ボタンをクリックする

未フォーマットのフロッピーディスクの場合、クイックフォーマットはできません。



*画面はWindows 2000の場合です。

フォーマットが開始されます。

フォーマットが終了すると、「フォーマットが完了しました。」というメッセージが表示されます。

[OK]ボタンをクリックする

これで、フォーマットは完了です。

他のフロッピーディスクも続けてフォーマットする場合は、フロッピーディスクを入れ替えて、手順5から実施します。

フォーマットを終了する場合は、[閉じる]ボタンをクリックします。

4 CD-ROM 装置

1 CD

使用できる CD は、次の種類です（読み込みのみ可能です）。

音楽用 CD

8cm、12cm の音楽用 CD が聴けます。

フォト CD

CD-ROM

使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。

CD エクストラ

CD-R

CD-RW

☞ CD-ROM の使用について ☞ 「日常の取り扱い-コンパクトディスク（CD）」





メモ

・CD-R、CD-RW は、メディアの特性や書き込み時の特性によって、読み込めない場合があります。

2 CD のセットと取り出し



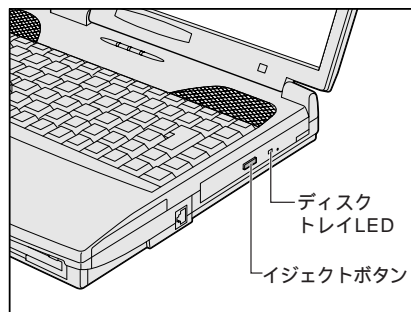
注意

- ・ディスクトレイ内のレンズに触れないでください。CD-ROM 装置の故障の原因になります。
- ・FDD/CD-ROM  /  LED およびディスクトレイ LED が点灯しているときは、CD-ROM が動作しています。このときはイジェクトボタンを押さないでください。CD または CD-ROM 装置の故障の原因となります。







お願い

- ・パソコン本体を携帯するときは、CD-ROM 装置に CD が入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。



メモ

- ・CD は、電源が入り、FDD/CD-ROM  /  LED が消灯しているときにセット / 取り出しができます。
- ・次の場合は、ディスクトレイはイジェクトボタンを押しても出てこない、またはすぐには出てきません。
 - ・電源を入れた直後
 - ・リセットした直後
 - ・ディスクトレイを閉じた直後これらの場合には、ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。
- ・Windows が起動したとき、FDD/CD-ROM  /  LED が周期的に薄く点灯します。これは CD の自動挿入を検出しているためで、故障ではありません。

● CD のセット

CD-ROM 装置へ CD をセットするには、次のように行います。

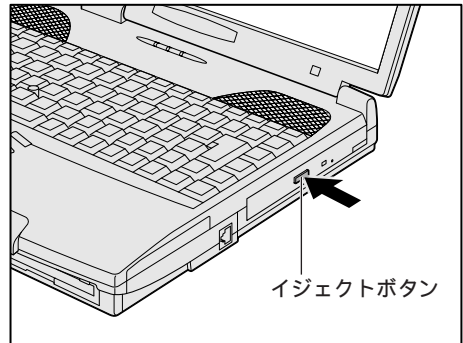
1 パソコン本体の電源を入れる



・電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。

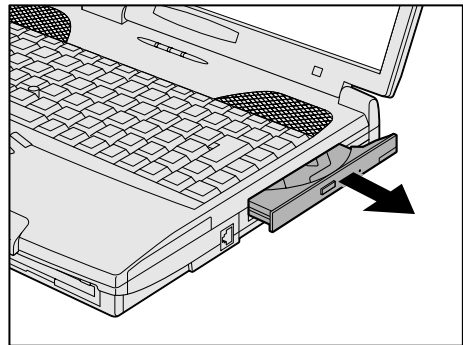
2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手を離してください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

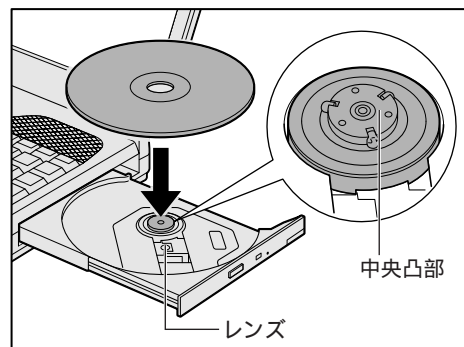


3 ディスクトレイを引き出す

CD をのせる面がすべて出るまで、引き出します。

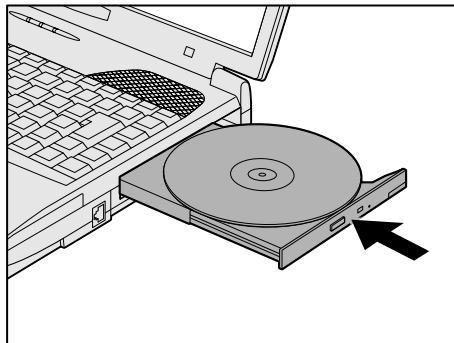


4 文字が書いてある面を上にして、CD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部分に合わせ、上から押さえてセットする カチッと音がして、セットされていることを確認してください。




- 注意** ・ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。CD-ROM 装置の故障の原因になります。
- ・CD をディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
 - ・CD を正しくディスクトレイにセットしないと、CD を傷つけることがあります。

- 5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイをCD-ROM装置に押し戻す



● CDの取り出し

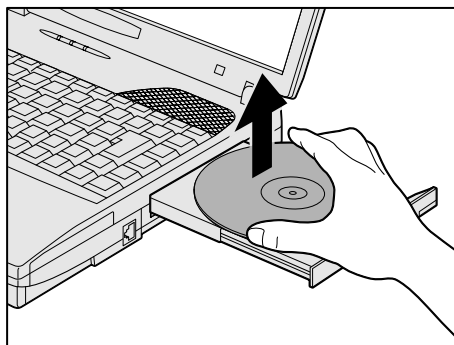
! 注意 ・FDD/CD-ROM  LED が点灯しているときは、CDを取り出さないでください。CDのデータやCD-ROM装置がこわれるおそれがあります。



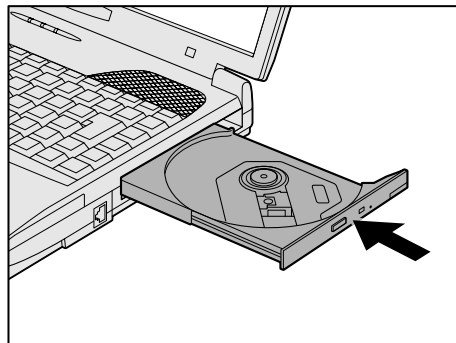
お願い

・パソコン携帯時は、CD-ROM装置に入っているCDは取り出してください。

- 1 パソコン本体の電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し出てきます。
- 3 ディスクトレイを引き出す
CDをのせる面がすべて出るまで、引き出します。
- 4 CDの両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す
ディスクトレイからCDを取り出します。
CDを取り出しにくいときは、中央凸部を少し押ししてください。簡単に取り出せるようになります。

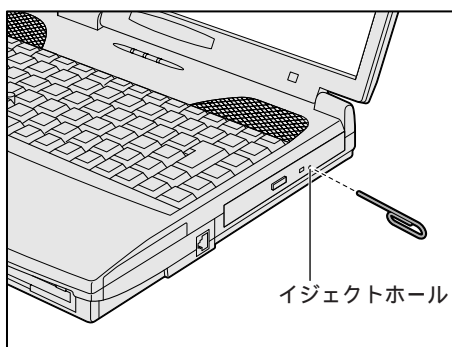


5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す



メモ

- ・電源を切っているときにイジェクトボタンを押しても、ディスクトレイは出てきません。故障などで電源が入らない場合は、CD-ROM 装置のイジェクトホールを、先の細い、丈夫なもの（例えば、クリップを伸ばしたもの）で押してください。ディスクトレイが出てきます。



- 注意** ・電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中の CD のデータや CD-ROM 装置がこわれるおそれがあります。

4 章

ハードウェアについて

5 PC カード

本製品には、PC カード（別売り）を取り付けることができます。



注意 ・ホットインサクションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行なってください。電源を入れたまま作業を行うと、PCカードが故障するおそれがあります。



メモ

- ・市販されているPCカードには、自己発熱の大きいものがあります。このようなカードを長時間動作させていると、自己発熱の影響により、カードの動作が不安定になる場合があります。また、他のカードと併用すると、熱の影響により、他のカードの動作も不安定になる場合があります。
 - ・ホットインサクション
パソコン本体の電源を入れたままで、PCカードの取り付け/取りはずしをすることをいいます。ただし、PCカードによってはこの機能に対応していないものがあります。
 - ・Windows NTをお使いの場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がインストールされていますので、ホットインサクションやプラグアンドプレイを行うことができます。ただし、PCカードによっては、これらの機能に対応していない場合があります。また、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をアンインストールした場合やこのユーティリティに対応していないPCカードの場合、ホットインサクションやプラグアンドプレイを行うことはできません。
- ☞ 詳細について ⇒ [スタート]-[プログラム]-[CardWizard for Windows NT]-
[最初に必ずお読みください]

使用できるPCカードのタイプは、取り付けるスロットによって異なります。

使用スロット	使用可能タイプ
1 (上側)	TYPE /
0 (下側)	TYPE / /

PCカードの例を次にあげます。

モデムカード
SCSIアダプタ
フラッシュメモリ
CardBus対応カード



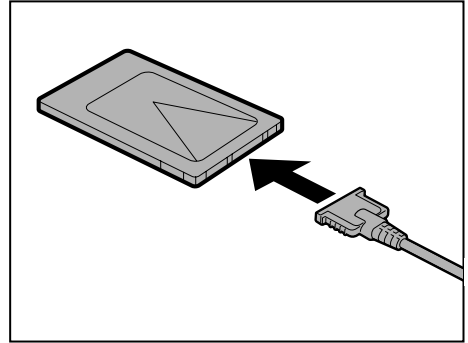
メモ

- ・スロット0にタイプ のPCカードを取り付けた場合は、スロット1にPCカードを取り付けることはできません。

☞ 『PCカードに付属の説明書』

● 取り付け

- 1 PCカードにケーブルを付ける
モデムカードなど、ケーブルを接続することが必要なカードの場合は、この作業を行ってください。

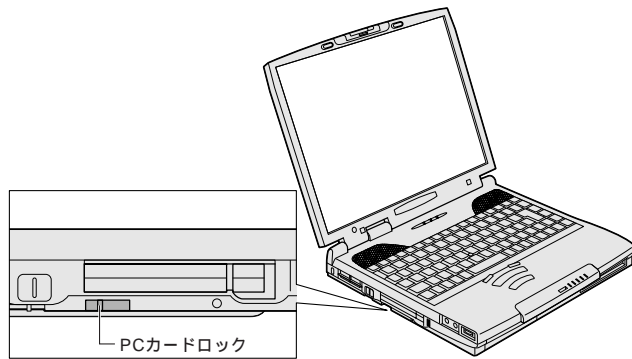


お願い

- ・ケーブルを接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

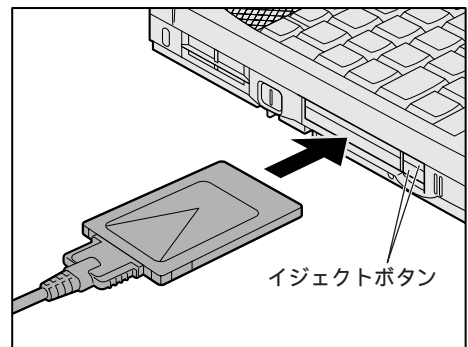
- 2 PCカードロックを解除する

図のようにPCカードロックが左側にあることを確認してください。右側にある場合は、左にスライドしてロックを解除してください。



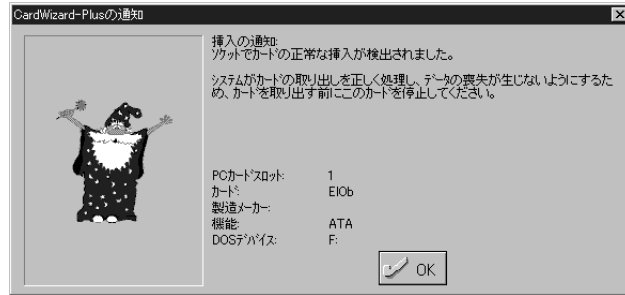
- 3 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する

カードを確実に接続するために、無理な力を加えずに静かに押ししてください。



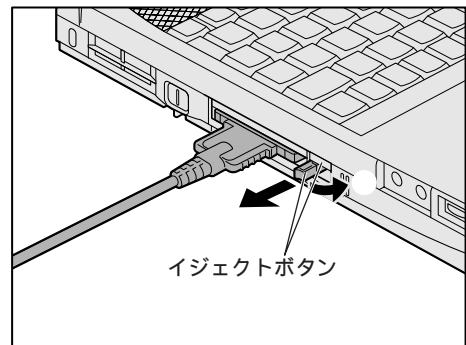
カードが十分に押し込まれたら、イジェクトボタンが出てきます。
上のイジェクトボタンは、PCカードスロット1用です。下は、PCカードスロット0用です。

Windows NT の場合、PC カードを挿入すると、メッセージが表示されますので、画面の指示に従ってください。



(表示例)

- 4 イジェクトボタンを手前に引き出し、右側に倒す
PC カードが固定されます。



- 5 PC カードロックを有効 (右側) にする
カードを接続した後、カードを使用できるように設定されているかどうかを確認してください。

☞ カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PC カードに付属の説明書』

● 取りはずし

- ⚠ 注意
- ・PC カードの使用終了は必ず行なってください。使用終了せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。
 - ・Windows NT の場合、PC カードが「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していない場合は、必ず電源を切ってから PC カードを取りはずしてください。




お願い


- ・PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してから取りはずしを行なってください。

1 PCカードの使用を終了する


98

タスクバーにある [PCカード] アイコン () をダブルクリックする
表示される画面で、終了する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
「安全に取りはずせます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

2000

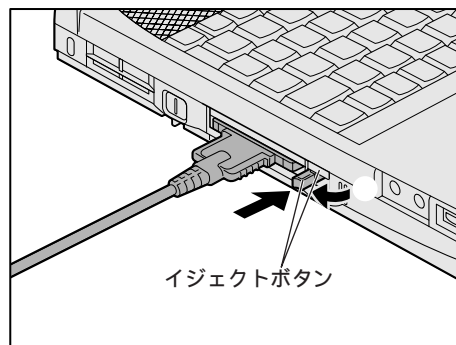
タスクバーにある [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をダブルクリックする
表示される画面で、終了する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
表示される画面で、終了する PC カードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
「安全に取り外すことができます」が表示されたら、[OK] ボタンをクリックする

NT

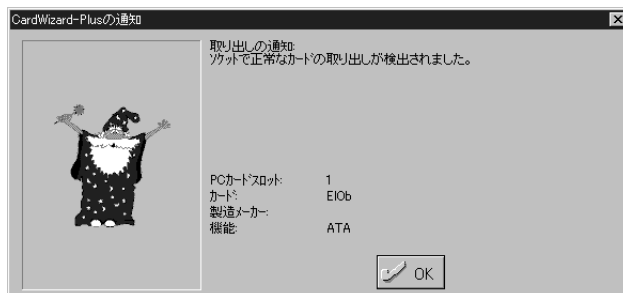
タスクバーにある [CardWizard] アイコン () をダブルクリックする
表示される画面で、終了する PC カードスロットを選択し、右クリックする
表示されるメニューから [停止] ボタンをクリックする

2 PCカードロックを解除 (左側) にする

3 取りはずしたいカードのイジェクトボタンを引き起こし、押し カードが少し出てきます。

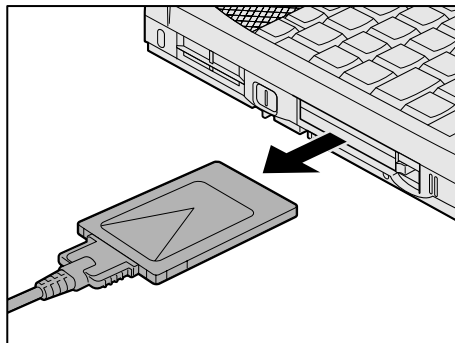


Windows NT の場合、PC カードを取りはずすと、メッセージが表示されますので、画面の指示に従ってください。



(表示例)

4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く

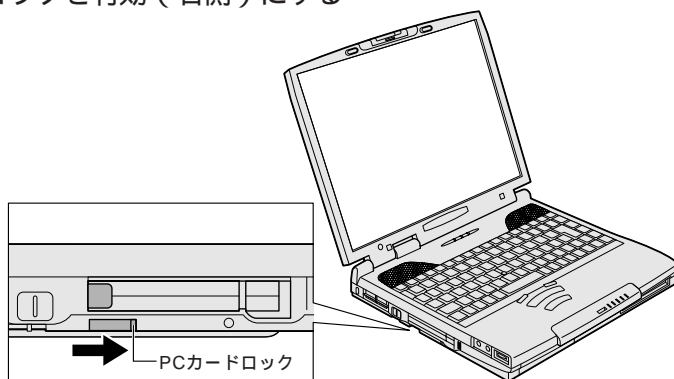


注意 ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。

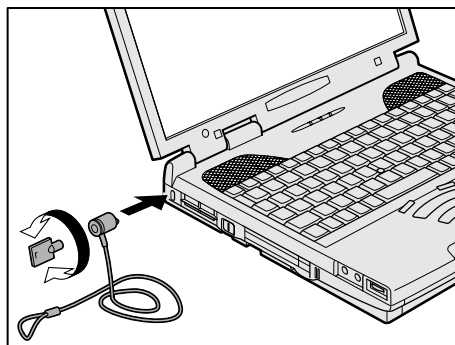
● PCカードをロックする

セキュリティロックとPCカードロックを使用することでPCカードが取りはずせないようにすることができます。PCカードを取り付け後、この操作を行なってください。またこの操作は必要なときのみ行なってください。

1 PCカードロックを有効（右側）にする



2 セキュリティロックをする



お願い

・セキュリティロック用の機器については、本製品に対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

6 増設メモリ

本製品には、64MBのメモリが標準装備されています。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、最大2枚の増設メモリが取り付けられます。

別売りの増設メモリ（64、128、256MB）を取り付けることで、最大576MBまで拡張することができます。



警告 ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。



注意 ・増設メモリの取り付け/取りはずしを行う場合は、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。電源を入れたまま取り付け/取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
・電源を切った直後には、増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。増設メモリスロット周辺が熱くなっているため、やけどのおそれがあります。増設メモリの取り付け/取りはずしは、電源を切った後30分以上たってから、行うことをおすすめします。
・増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
・増設メモリは必ずスロットAから取り付けてください。スロットBのみに取り付けると、正常に動作しないおそれがあります。



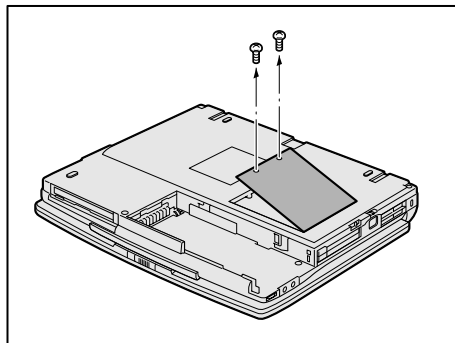
お願い

・増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。
・スタンバイ機能（）、サスペンド機能（）、休止状態（）を設定したまま、増設メモリの取り付け/取りはずしを行わないでください。スタンバイ/サスペンド機能、または休止状態は無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
・増設メモリは本製品で動作が保証されているものをご使用ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。

取り付け

- 1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
 - 2 パソコン本体に接続されているACアダプタとケーブル類ははずす
 - 3 パソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
- ☞ バッテリーパックの取りはずし方 ☞ 「3章 1-4 バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。



警告

・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

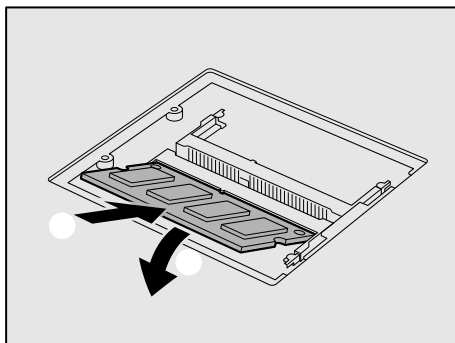


注意

・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し、固定するまで増設メモリを倒す

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。



注意

・増設メモリは必ずスロット A から取り付けてください。スロット B のみに取り付けると、正常に動作しないおそれがあります。

6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる

7 バッテリパックを取り付ける

☞ バッテリパックの取り付け方 ⇨ 「3 章 1-4 バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れたとき、合計のメモリ量が自動的に認識されます。合計のメモリ量が正しいかどうかを次の方法で確認してください。

98  : PC 診断ツール

[スタート] - [プログラム] - [東芝ユーティリティ] - [PC 診断ツール] をクリックする

[基本情報の表示] ボタンをクリックする

[メモリ] の数値を確認する

2000  : システムのプロパティ


[スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

[システム] をダブルクリックする

[全般] タブの RAM の数値を確認する

● 取りはずし

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

 **注意** ・増設メモリの取り付け / 取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行なってください。

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 パソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす


☞ バッテリパックの取りはずし方 ⇨ 「3 章 1-4 バッテリパックを交換する」


4 増設メモリカバーのネジ 2 本をはずし、カバーをはずす



お願い

・ネジをはずす際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。

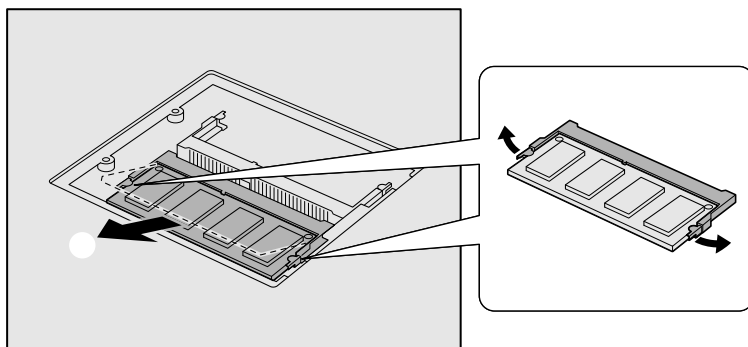
 **警告** ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。

 **注意** ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにごみが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

スロット A の増設メモリを取りはずした場合、スロット B のみに増設メモリを取り付けた状態で使用しないでください。正常に動作しないおそれがあります。スロット B の増設メモリをスロット A に取り付け直すか、スロット A に別の増設メモリを取り付けてください。



6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 ではずしたネジ 2 本をとめる

7 バッテリーパックを取り付ける

☞ バッテリーパックの取り付け方 ⇨ 「3 章 1-4 バッテリーパックを交換する」

7 LAN の接続

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応した LAN インタフェースが内蔵されています。本製品の LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet、Ethernet であるかを検出し、自動的に切り替えます。ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN インタフェースをご使用になる際の注意事項を説明します。

1 適正なケーブルの確認

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。

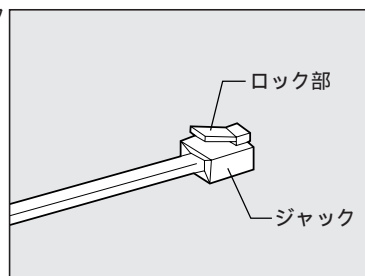
10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。

2 LAN ケーブルの接続



お願い

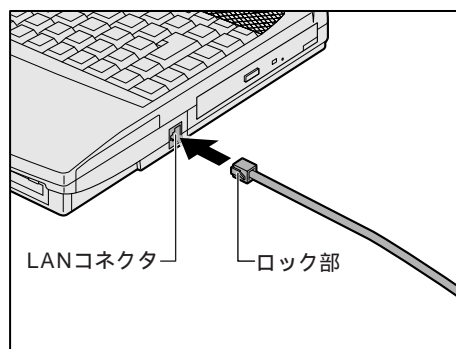
・LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、ジャックの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのジャックを右側面の LAN コネクタに差し込む

ロック部を手前にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のジャックを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

3 Windows 98 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。接続するネットワークの、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。購入時は既定値 (Default) が設定されています。既定値のままネットワークに接続すると、ネットワークに障害をもたらす場合があります。また、セットアップが終了し、Windows の起動時に、ネットワークパスワードを入力する必要がある場合があります。後述の「起動時のパスワードの入力」を参照のうえ、パスワードを入力してください。



注意 ・購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

・ネットワーク設定は、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 2 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックする
- 3 [ネットワークの設定] タブで変更を行う

コンピュータに接続されているネットワークアダプタによって、画面内のアダプタ名は異なります。



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行なってください。

- ネットワーククライアント ほかのコンピュータに接続する機能です。
- プロトコル コンピュータが通信するための言語です。通信する複数のコンピュータどうしは、同じプロトコルを使用する必要があります。
- アダプタ コンピュータを物理的に接続するハードウェアデバイスです。
- サービス このコンピュータのファイルやプリンタなどのリソースを、ほかのコンピュータから使えるようにします。

4 [識別情報] タブで、[コンピュータ名] [ワークグループ] をネットワーク管理者の指示に従い、設定する



(表示例)



注意

- ・コンピュータ名とワークグループは必ず既定値 (Default、Default_Wg) の状態から変更してください。既定値のままのコンピュータを複数台ネットワークに接続しますと、コンピュータ名が重複し、次のエラーメッセージが表示されますので、必ず重複しないコンピュータ名を付けてください。



5 [アクセスの制御] タブで、変更を行う



(表示例)

ネットワーク管理者の指示に従い、共有リソースへのアクセス権の管理方法を設定します。

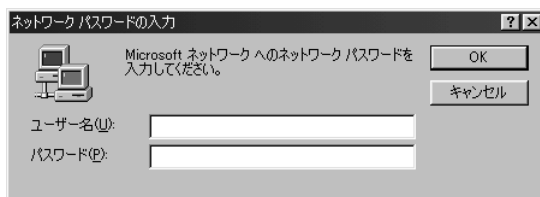
6 設定が終了したら、[OK] ボタンをクリックし、パソコン本体を再起動する

● 起動時のパスワードの入力

1 パソコンの電源を入れる

2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する

ここで表示されるダイアログボックスは、ネットワークの設定内容によって異なります(ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログインするかどうかなど)。ここでは、次のダイアログボックスを例にあげていますが、他のダイアログボックスの場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

4 Windows 2000 のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

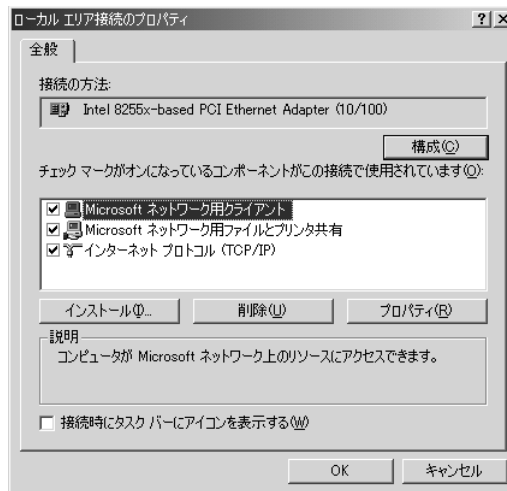


お願い

・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル] をクリックする
- 3 [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックする
- 4 [ローカルエリア接続] アイコンにマウスポインタを合わせて右クリックする
- 5 表示されるメニューから [プロパティ] を選択する
- 6 ネットワーク接続の設定を行う



(表示例)

セットアップ時に設定した構成になっています。

本製品の標準設定の場合、次のようになっています。

アダプタ : Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
 クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
 サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
 プロトコル : TCP/IP (自動取得)

● ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 3 [システム]アイコンをダブルクリックする
- 4 [ネットワーク ID]タブを選択する



(表示例)

5 ネットワーク ID とプロパティの設定を行う

コンピュータ名、ドメイン/ワークグループ名はセットアップ時に設定した構成になっています。

変更する場合はここで再設定してください。

5 Windows NT のネットワーク設定について

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。ネットワーク管理者の指示に従って設定を行なってください。



注意 ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。



お願い

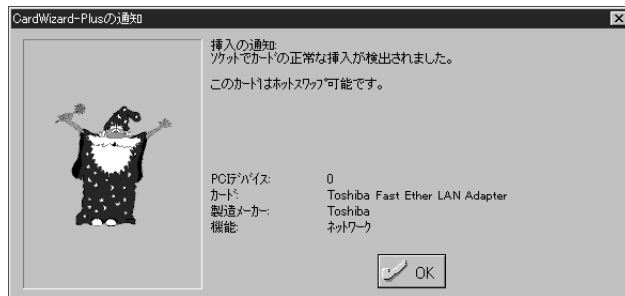
・ネットワーク設定やコンピュータ識別は、必ずネットワーク管理者の指示に従ってください。

ネットワークの設定

1 Administrators グループのユーザアカウントでログオンする

「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージが表示されます。

「カード」、「ソケット」など、メッセージが PC カード向けの内容になっていますが、動作には問題ありません。



(表示例)

2 [OK]ボタンをクリックする

3 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

4 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする

次の画面が表示されます。



(表示例)

5 識別、サービス、プロトコル、アダプタ、バインドの設定を行う

詳細は付属の『ファーストステップガイド Microsoft Windows NT Workstation』の「ネットワークへの接続」の章をご覧ください。

なお、ご購入時、およびリカバリ CD で標準システムを復元したときは Windows NT Service Pack6 がインストールされた状態になっています。

また、ご購入時のネットワークの構成は次のようになっています。

アダプタ	: Toshiba Fast Ether LAN Adapter
プロトコル	: NetBEUI
識別	: WORKGROUP
コンピュータ名	: 初期セットアップ時に入力した名前

プロトコルなどを追加する場合「いくつかの Windows NT ファイルをコピーする必要があります」というダイアログボックスが表示される場合があります。

この場合は、ダイアログボックスのファイル検索場所に「C:\%i386」と表示されていることを確認して [OK] ボタンを押してください。

詳細については、『Windows NT のヘルプ』を参照してください。



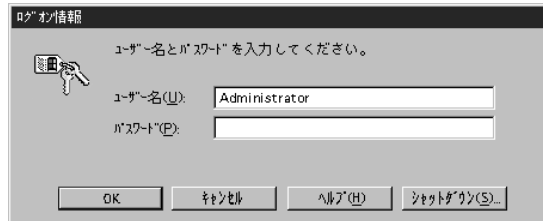
注意 ・TCP/IP プロトコルの追加などネットワークの設定を変更した場合には、一部のファイルが古いバージョンに置き換わることがあります。設定完了後、Windows NT Service Pack6 をインストールしてください。

☞ 「本項 - Service Pack6 のインストールについて」

● 起動時のパスワード入力

1 パソコンの電源を入れる

- 2 ネットワーク管理者の指示に従い、ユーザー名と、パスワードを入力する
ここで表示される画面は、ネットワークの設定内容によって異なります（ネットワーククライアントの種類、ドメインサーバにログオンするかどうかなど）。ここでは、次の画面を例にあげていますが、他の画面の場合もネットワーク管理者の指示に従い、入力してください。



(表示例)



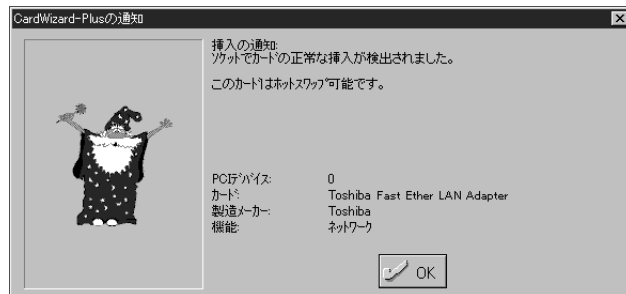
・パスワードは、忘れないようにメモすることをおすすめします。

メモ

ログオンすると次の画面が表示されます。

これは、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」が内蔵 LAN インタフェースを認識したことを知らせるメッセージです。

メッセージの内容が PC カード向けになっていますが、動作には問題ありません。



(表示例)

3 [OK] ボタンをクリックする

Service Pack6 のインストールについて

LAN などのドライバ / プロトコルを追加 / 変更した場合には、Service Pack6 を再度インストールしなければなりません。

なお、Service Pack6 をインストールすると一部のファイルが置き換えられてしまい、正常に動作しなくなるアプリケーションもあります。

インストールの際は次の手順に従ってください。

詳細については、《オンラインマニュアル》または《リリース情報》をご覧ください。

- 1** Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 2** 「東芝パワーマネジメントシステム」をアンインストールする
アンインストールが完了した後は、必ず再起動してください。
- 3** Administrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 4** 「Windows NT Service Pack 6a Disc1」の CD をセットする
- 5** [スタート] - [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- 6** 「D:¥i386¥UPDATE¥Update.exe」と入力する
「D:」は CD-ROM ドライブの場合です。
- 7** [OK] ボタンをクリックする
インストールが開始されます。表示されるメッセージに従ってインストールしてください。
インストールが完了すると、メッセージが表示されます。
- 8** [再起動] ボタンをクリックする
パソコンを再起動します。
- 9** Adminiatrators グループのユーザアカウントでログオンする
- 10** 「東芝パワーマネジメントシステム」を再インストールする
インストールが完了した後は、必ず再起動してください。

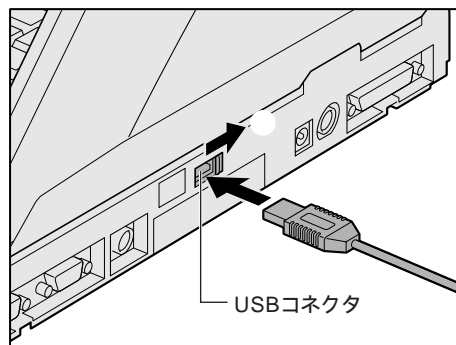
8 USB 機器の接続

本製品には、USB 規格の機器を取り付けることのできる、USB コネクタが用意されています。USB 機器が対応しているシステムを確認のうえ、お使いください。

* Windows NT 4.0 では、USB 機器はサポートしていません。

● 取り付け

- 1 USB コネクタカバーを開け、USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 機器に差し込む
手順 2 が必要ない機器もあります。



お願い

- ・ USB 対応の周辺機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- ・ 今後出荷される USB 対応の周辺機器については、動作確認ができていないためすべての周辺機器の動作を保証することはできません。
- ・ USB 機器を接続したままスタンバイ機能を実行すると、復帰後 USB 機器が使用できない場合があります。その場合は、パソコンを再起動してください。

● 取りはずし

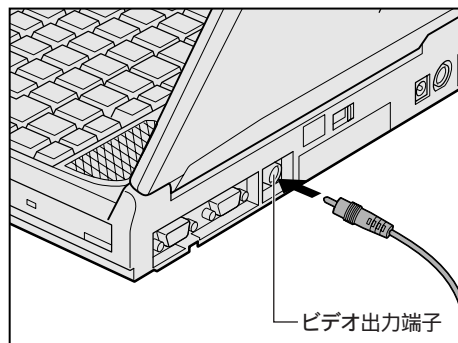
- 1 パソコン本体と USB 機器に差し込んである USB ケーブルのプラグを抜く
☞ USB 機器についての詳細 ⇨ 『USB 機器に付属の説明書』

9 テレビへの接続

本製品にはビデオ出力端子が装備されており、画像を出力できます。
市販のビデオ出力ケーブルを使用すると、テレビなどを接続できます。

● 取り付け

- 1 ビデオ出力ケーブルのプラグ（ピンジャックタイプ）をパソコン本体のビデオ出力端子に差し込む



- 2 もう一方のプラグをテレビの入力端子に差し込む

● 取りはずし

- 1 パソコン本体とテレビに差し込んであるビデオ出力ケーブルのプラグを抜く

● テレビに表示する

テレビに表示するには次の方法で表示装置を切り替えてください。表示装置を切り替えないと、テレビには表示されません。

● 方法 1 - 画面のプロパティで設定する

■ 98 ■ 2000

- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [画面]をダブルクリックする
- [設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする
- [S3 Duo View +]タブの[表示デバイス選択]で次のいずれかを選択する
- LCD/TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- LCD/TV を選択するには、[コントローラの選択]で[デュアルコントローラ]を選択してください。
- TV テレビだけに表示

■ NT

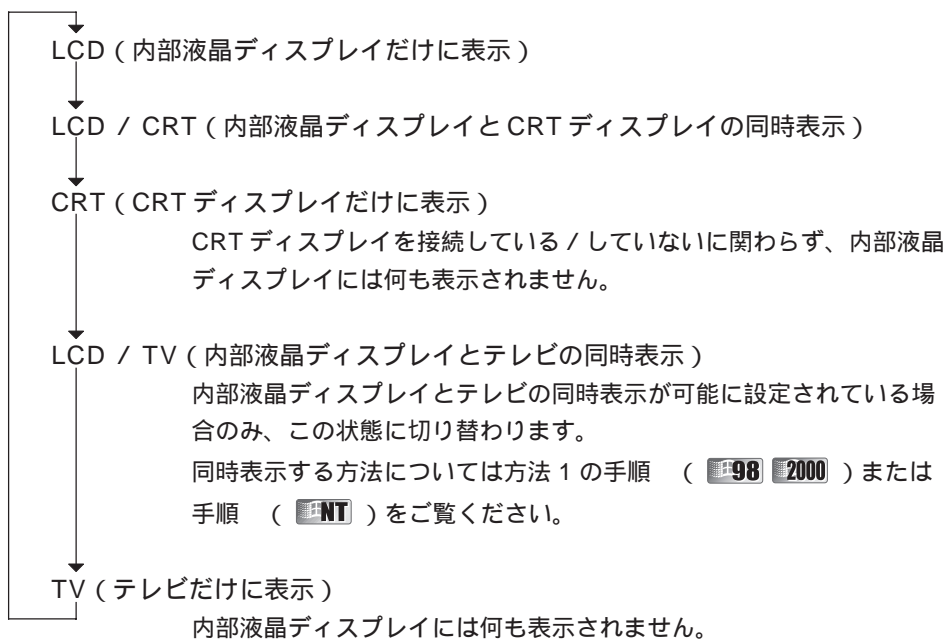
- [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- [画面]をダブルクリックする
- [S3 Duo View +]タブの[表示デバイス選択]で次のいずれかを選択する
- LCD/TV 内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示
- LCD/TV を選択するには、[コントローラの選択]で[デュアルコントローラ]を選択してください。
- TV テレビだけに表示



・MS-DOS モードを選択している場合、内部液晶ディスプレイとテレビの同時表示はできません。

● 方法 2 - Fn + F5 キーを使う

Fn キーを押したまま、F5 キーを押すたびに次の順で表示装置が切り替わります。



10 プリンタの接続

PRT コネクタにパラレルインタフェースを持つプリンタを接続できます。プリンタを使用するには、ドライバのインストールや設定が必要です。また、接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

● プリンタドライバのインストール

Windows が標準でドライバを用意していないプリンタの場合、プリンタの製造元が提供するフロッピーディスクやCD-ROM などのインストールディスクが必要です。詳しくは、『プリンタに付属の説明書』をご覧ください。

1 [スタート]-[設定]-[プリンタ]をクリックする
[プリンタ]画面が表示されます。

2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックする
ウィザードが起動します。画面に表示されるメッセージに従って操作してください。

テストページを印刷する場合は、印刷する前に、プリンタの電源が入っていること、および印刷の準備ができていることを確認してください。

● プリンタポートモードの設定

ご使用になるプリンタにあわせてプリンタポートモードの設定が必要です。

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする

3 [Parallel/Printer] タブで [Parallel Port Mode] を、使用するプリンタに合ったモードに設定する

ECP (標準値)..... ECP に対応します。大半のプリンタでは、ECP に設定します。

Standard Bi-directional... 双方向に設定します。一部のプリンタまたは、プリンタ以外のパラレルインタフェース対応機器を使用する場合に設定します。

11 CRT ディスプレイの接続

RGB コネクタに CRT ディスプレイを接続できます。
CRT ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその CRT ディスプレイを認識します。また、カラーかモノクロかを判断します。
本製品では VGA と SVGA のビデオモードをサポートしています。

1 取り付け / 取りはずし

● 取り付け

- 1 CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む
コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。
- 2 CRT ディスプレイに付属のケーブルのもう一方のプラグを CRT ディスプレイのコネクタに差し込む

● 取りはずし

- 1 RGB コネクタに差し込んである CRT ディスプレイに付属のケーブルのプラグを抜く

2 表示方法の切り替え

CRT ディスプレイを接続した場合、次の表示方法があります。

- ・ CRT ディスプレイだけに表示する（初期設定）
- ・ CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時表示する
- ・ 内部液晶ディスプレイだけに表示する



お願い

- ・ 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・ データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやり取りが完了するまで待ってください。
 - ・ 通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。



メモ

- ・ CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

● 方法 1 ー画面のプロパティで設定する

● Windows 98 / 2000 の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [画面]をダブルクリックする
- 3 [設定]タブで[詳細]ボタンをクリックする
- 4 [S3 Duo View +]タブの[表示デバイスの選択]で次のいずれかを選択する
 - LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
 - CRT CRTディスプレイだけに表示

● Windows NT の場合

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [画面]をダブルクリックする
- 3 [S3 Duo View +]タブの[表示デバイスの選択]で次のいずれかを選択する
 - LCD 内部液晶ディスプレイだけに表示
 - LCD / CRT 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示
 - CRT CRTディスプレイだけに表示

● 方法 2 ーユーティリティで設定する

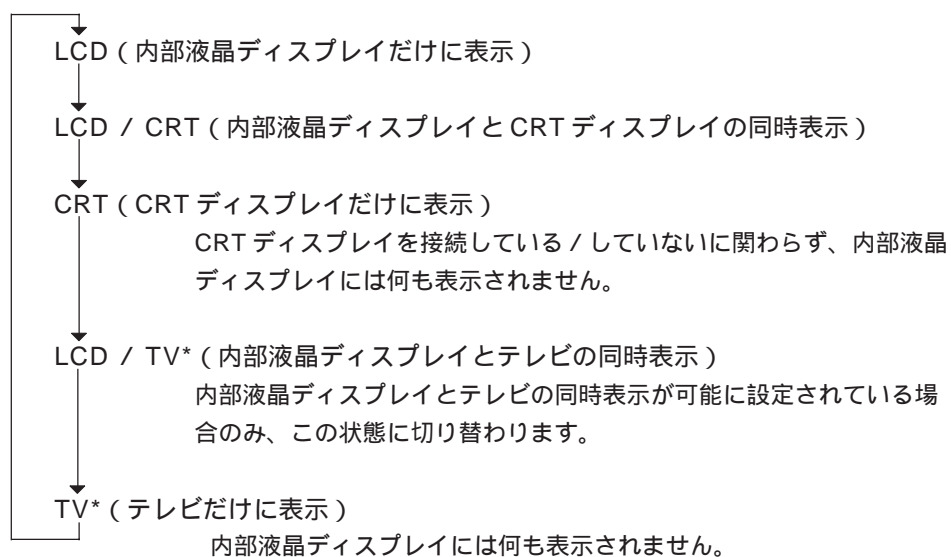
- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ]をダブルクリックする
- 3 [Display]タブで[Power On Display]を設定する
 - Auto-Selected CRTディスプレイだけに表示 (CRTディスプレイ接続時)
 - Simultaneous 内部液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示

● 方法 3 ー [セットアッププログラム] で設定する

- 1 「セットアッププログラム」を起動する
 - ☞ 起動方法 ☞ 「6章 1-1 セットアッププログラムを起動する方法」
- 2 [DISPLAY]で[Power On Display]を設定する
 - ☞ 「6章 1-4 設定項目」

● 方法 4 - Fn + F5 キーを使う

[Fn] キーを押したまま、[F5] キーを押すたびに次の順序で切り替わります。



* テレビ接続時について ⇨ 「本章 9 テレビへの接続」

12 外付けキーボードの接続

PS/2 対応のキーボードを PS/2 コネクタに接続して使用することができます。



注意 ・外付けキーボードを接続するときには、必ず電源を切ってから行ってください。
電源を入れたまま接続すると、故障のおそれがあります。

● 取り付け

- 1 PS/2 コネクタに外付けキーボードのプラグを差し込む
接続するときは、コネクタの形状に注意して正しく差し込んでください。コネクタに無理な力が加わるとピンが折れたり、曲がったりします。

● 取りはずし

- 1 パソコン本体に差し込んである外付けキーボードのプラグを持って抜く

5

便利な機能

本章では、パソコンを使いやすくするための環境設定用のユーティリティについて説明しています。



- 1** 消費電力を節約する 140
- 2** 東芝 HW セットアップ 155



1 消費電力を節約する

本製品には、パソコン本体を省電力で使うための機能が用意されています。これらの機能を使うと、使用目的や環境に合わせて簡単に省電力設定が行えます。

省電力設定を行うことによって、パソコン本体のバッテリー消費電力を抑え、より長い時間お使いいただけます。

ご使用のシステムの「東芝省電力ユーティリティ」() 「省電力ユーティリティ」() をご覧ください。


1 東芝省電力ユーティリティ (Windows 98 / 2000)

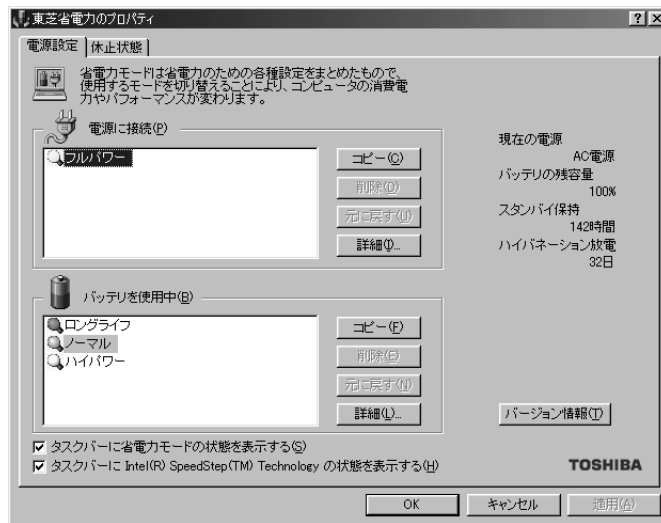
起動方法

1 [スタート] - [設定] - [コントロールパネル] をクリックする

2 [東芝省電力] をダブルクリックする

東芝省電力ユーティリティが起動します。

タスクバーの省電力アイコン () をダブルクリックしても起動できます。



(表示例)

[電源設定] タブ

使用目的や使用環境 (モバイル、会社、家など) に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

[電源に接続][バッテリーを使用中]には、設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用したい省電力モードに設定します。[電源に接続][バッテリーを使用中]はACアダプタに接続している/していないによって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。

これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、

名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本節 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続](ACアダプタを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ノーマル

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリー使用中](バッテリーを使用するとき)がこのモードに設定されています。

ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

● 省電力モードの作成

- 1 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- 2 [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- 3 その省電力モードの名前を変更する

● 省電力モードの削除

- 1 削除する省電力モードをクリックする
- 2 [削除] ボタンをクリックする
[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[OK] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。



メモ

・ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

● タスクバーに省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

● タスクバーにCPU周波数の状態を表示する

ここをチェックすると現在のCPU周波数(インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® III プロセッサ)の状態を示すCPU周波数アイコンがタスクバーに表示されます。このチェックをはずすとアイコンは表示されません。CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

● [休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。
使用する場合には、[休止状態をサポートする] をチェックします。

● 省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

● 起動方法

- 1 [電源設定] タブで利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

● [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

● [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPU の処理速度などを設定します。

● [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたとき、システムアイドルのときの動作を設定します。



- ・ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。

スタンバイ機能

スタンバイ機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源スイッチを押すと、以前の状態がすばやく再現されます。



お願い

- ・ 次のような場合はスタンバイ機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・ 誤った使い方をしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、電池交換のとき
 - ・ 電源を切った後、すぐに電源を入れたとき
 - ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け / 取りはずしをしたとき

休止状態

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。



お願い

- ・ 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、AC アダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- ・ ドライブ C を、Windows のシステムツールである「ドライブスペース」や市販の圧縮ユーティリティで圧縮すると、休止状態が使用できなくなります。休止状態を使用する際は、元の状態に復元してください。
- ・ 休止状態中に増設メモリの取り付け / 取りはずしを行わないでください。休止状態が無効になり、データが消失するおそれがあります。
- ・ 休止状態が有効（[東芝省電力] - [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態を実行して電源を切ります。休止状態が無効の場合、スタンバイ機能を実行して電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

電源オフ

Windows 98 / 2000 を終了して電源を切ります。

スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求めるここにチェックを入れると Windows のパスワードを入力しないとスタンバイや休止状態から復活できないようになります。

● [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知するためのサウンドやメッセージおよび実行する動作やプログラムを設定します。

[アラーム] タブは [電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合に表示されます。

② 省電力ユーティリティ (Windows NT)

● 起動方法

1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする

2 [省電力]をダブルクリックする

省電力ユーティリティが起動します。



(表示例)

● [省電力モード] タブ

● 省電力モード

次の省電力モードが用意されています。

フルパワーモード

パソコンを最大パワーで使用します。システムの初期状態で AC アダプタを使用するときには、このモードに設定されています。

ハイパワーモード

性能を優先して省電力制御を行います。

ミディアムパワーモード

性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。システムの初期状態でバッテリーを使用するときには、このモードに設定されています。

ローパワーモード

消費電力を優先して省電力制御を行います。

ユーザ設定モード

各パワーモードとは別に省電力設定を自由に設定できます。

基本的な 4 つのモード以外の省電力設定を行うときは、このモードを使用してください。

省電力モードを選択して [詳細設定] ボタンを押すと、選択した省電力モード設定の確認および変更ができます。

● [詳細設定] ボタン

このボタンを押すと、選択している各省電力モードに対する細かい省電力設定を行う画面を表示します。

各タブでは次のことが設定できます。

[ディスプレイ] タブ

キーボード、アキュポイント およびマウスをある一定時間使用していないとき、画面表示を自動的に消して、消費電力を少なくします。バックライトとディスプレイの両方も消すので、画面表示に使用する電力を最少にすることができ、もっとも省電力の効果があります。

また、画面の輝度（バックライトの明るさ）を下げることによっても省電力の効果があります。

[HDD] タブ

ハードディスクを一定時間使用していないときに、ハードディスクのモータを停止させて、消費電力を少なくします。

ハードディスクがオフの状態、ハードディスクへのアクセスが発生すると、ハードディスクが使用できるようになるまで、しばらく時間がかかります。

また、さらに省電力効果を向上させ、使い勝手を良くするために監視設定機能があります。

[CPU] タブ

CPU 処理速度を切り替えるなどの、CPU の制御処理を行い、消費電力を減らすことができます。

[システム] タブ

再起動の方法とスタンバイのタイミングを制御します。

サスペンド/レジュームを選択すると、システム自動停止機能やパネルスイッチ機能を利用することができます。それぞれ、[システム] タブで設定する必要があります。

システム自動停止機能とは、キーボード、アキュポイント、マウス、ハードディスクなどを一定時間使用していないときに、自動的にサスペンド機能を実行して、システムの電源を切る機能です。

パネルスイッチ機能とは、パソコン本体のディスプレイを閉じたときに、自動的にサスペンド機能を実行してシステムの電源をオフにし、ディスプレイを開けたときには自動的に電源をオンにする機能です。



メモ

・既定値は次のようになっています。

フルパワーモード : Boot

それ以外のモード : サスペンド/レジューム

Boot、サスペンド/レジュームの切り替えは、タスクバー上の省電力アイコンでも変更できます。

サスペンド機能

サスペンド/レジュームを選択すると、サスペンド機能が有効になります。サスペンド機能とは、パソコン本体の電源を切ったときに、メモリの内容を保持しておく機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。サスペンドの内容は、バッテリーの充電量が減少すると、保持できなくなります。



お願い

- ・ 次のような場合はサスペンド機能が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。
 - ・ 誤った使い方をしたとき
 - ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
 - ・ バッテリーが消耗したとき
 - ・ 故障、修理、電池交換をしたとき
 - ・ バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
 - ・ 増設メモリの取り付け/取りはずしをしたとき



メモ

- ・ 内蔵 LAN を使用している状態でサスペンド機能を実行する場合、「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」をインストールする必要があります。なお、ご購入時の状態ではインストールされています。
 - ・ 「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」に対応していない PC カードを使用している状態で、サスペンド機能を実行すると、エラーが発生するおそれがあります。
- ☞ 詳細について ☞ 《リリース情報》

[その他] タブ


システムスピーカ（システムビープ）の設定やアラームの制御を行います。



メモ

- ・ 各タブにある [既定値] ボタンを押すと、各項目を出荷時の設定状態に戻します。

● タスクバーへ省電力モードの状態を表示する

ここをチェックすると、現在の省電力モードを示す省電力アイコン  をタスクバーのインジケータ領域中に表示します。ここのチェックを消すと、省電力アイコンを表示しません。

● [タイマオン機能] タブ

タイマオン機能の設定を行います。

タイマオン機能とは、指定した時刻、日付に、パソコンを自動起動する機能です。指定できる日時は、設定当日より 1 年間です。

2 東芝 HW セットアップ



東芝 HW セットアップは、ハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。

● 起動方法

- 1 [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]をクリックする
- 2 [東芝 HW セットアップ]をダブルクリックする





メモ

- ・[標準設定]ボタンを押すと、すべての項目をご購入時の設定状態に戻します。
- ・スーパーバイザパスワードでユーザパスワードモードを「Unable to run Setup」()、「HW セットアップの起動禁止」() に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力すると、「東芝 HW セットアップ」は起動しません。
 - ☞ スーパーバイザパスワードについて
 - ⇒ 「6章 2-2 スーパーバイザパスワード」

詳しくは、東芝 HW セットアップのヘルプをご覧ください。

● ヘルプの起動方法

- 1 [東芝 HW セットアップ]を起動し、画面右上の  をクリックする
マウスポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい場所をクリックする
説明文がポップアップで表示されます。

5
章

便利な機能

6

システム構成とパスワードセキュリティ

本章では、パソコン本体のシステム構成の設定や、パスワードの登録/削除などについて説明します。


1 システム構成の設定	144
2 パスワードセキュリティ	158



① システム構成の設定

パソコン本体のシステム構成は、セットアッププログラムで設定します。
セットアッププログラムではなく、Windows 上のシステムからも変更することができます。

・ Windows 98 の場合

デバイスマネージャ、東芝 HW セットアップ、東芝省電力ユーティリティ ()
で行うことをおすすめします。

・ Windows 2000 / NT の場合

東芝 HW セットアップ、東芝省電力ユーティリティ () または省電力ユーティリティ ()、デバイスマネージャ ()
で行うことをおすすめします。

セットアッププログラムと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。






メモ


- ・ ご使用のシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- ・ セットアッププログラムで設定した内容は、内蔵バッテリーで保持するため、電源を切っても消えません。ただし、内蔵バッテリーが消耗した場合は標準設定値に戻ります。

① セットアッププログラムを起動する方法



メモ

- ・ スーパーバイザパスワードでユーザパスワードモードを「Unable to run SETUP」()、「HW セットアップの起動禁止」( ) に設定している状態で、パソコンの電源を入れたときにユーザパスワードを入力した場合には、セットアッププログラムは起動しません。

☞ ユーザパスワードモードについて ()

☞ 「本章 2-2- ユーザパスワードからの起動による制限事項の設定と解除」

☞ スーパーバイザパスワードについて ☞ 「本章 2-2 スーパーバイザパスワード」

● MS-DOS 上から起動する ()

Windows 98 のみ使用できます。

Windows 2000 / NT の場合、MS-DOS 上からは起動できません。

1 [スタート]-[Windows の終了 (U)]-[MS-DOS モードで再起動する (M)] を選択する

[スタート]-[プログラム]-[MS-DOS プロンプト] からは起動できません。

2 **C** **D** **S** **p** **a** **c** **e** **¥** **T** **O** **S** **S** **E** **T** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

3 **U** **S** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
英語モードに切り替わります。

4 **T** **S** **E** **T** **U** **P** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
セットアッププログラムが起動します。

● **Esc** キーで起動する

- 1 **Esc** キーを押しながら電源を入れる
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。
- 2 **F1** キーを押す
セットアッププログラムが起動します。

② セットアッププログラムを終了する方法

変更した内容を反映させて終了します。

- 1 **End** キーを押す
画面にメッセージが表示されます。
- 2 **Y** キーを押す
設定内容が反映され、セットアッププログラムが終了します。
変更した項目によっては、再起動されます。

● セットアッププログラムを途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合には行います。
この場合は変更した内容はまったく反映されません。設定値は変更前の状態のままです。

- 1 **Esc** キーを押す
画面にメッセージが表示されます。
- 2 **Y** キーを押す
セットアッププログラムが終了します。

3 セットアッププログラムの画面

セットアッププログラムには次の2つの画面があります。

(注) 画面は標準設定値の表示例です。

```

                                SYSTEM SETUP(1/2)                                ACPI BIOS version = * **
-----MEMORY-----
Total                = 65536KB
-----PASSWORD-----
Not Registered
-----BATTERY-----
Battery Save Mode    = Full Power
-----PERIPHERAL-----
Pointing Devices     = Auto-Selected
Ext Keyboard "Fn"    = Disabled
USB Legacy Emulation = Disabled
Parallel Port Mode   = ECP
Hard Disk Mode       = Enhanced IDE(Normal)
-----BOOT PRIORITY-----
Boot Priority         = FDD→HDD→CD-ROM→LAN
Power On Boot Select = Enabled
-----DISPLAY-----
Power On Display     = Auto-Selected
LCD Display Stretch  = Disabled
TV Config.
-----OTHERS-----
Power-up Mode        = Boot
CPU Cache            = Enabled
Level 2 Cache        = Enabled
Processor Serial Number = Disabled
Dynamic CPU Frequency Mode
                    = Dynamically Switchable
Auto Power On        = Disabled
Alarm Volume         = High
System Beep          = Enabled

: Select items Space, BkSp:Change values PgDn, PgUp:Change pages
Esc:Exit without saving Home:Set default values End:Save changes and Exit

```

```

                                SYSTEM SETUP(2/2)                                ACPI BIOS version = * **
-----CONFIGURATION-----
Device Config.       = All Devices
-----PC CARD-----
Controller Mode      = Auto-Selected
-----I/O PORTS-----
Serial               = COM1(3F8H/IRQ4)
Parallel             = LPT1(378H/IRQ7/CH3)
-----DRIVES I/O-----
HDD = Primary IDE(1F0H/IRQ14)
CD-ROM = Secondary IDE(170H/IRQ15)
-----FLOPPY DISK I/O-----
Floppy Disk          = (3F2H/IRQ6/CH2)
-----PCI BUS-----
PCI BUS              = IRQ11

: Select items Space, BkSp:Change values PgDn, PgUp:Change pages
Esc:Exit without saving Home:Set default values End:Save changes and Exit

```

☞ 設定項目の詳細について ☞ 「本節 4 設定項目」

● 基本操作

基本操作は次のとおりです。

● 変更したい項目の選択方法

セットアッププログラム画面中、反転している部分が現在変更できる項目です。
変更する項目に移動するには、、、、キーを使います。

● 項目の内容の変更方法

Space または BackSpace キーを押す
項目の内容が変わります。

● 画面を切り替える方法

PgDn または PgUp キーを押す
次の画面または前の画面に切り替わります。

● 設定内容を標準値にする方法

Home キーを押す
次にあげる項目以外は、設定内容が標準設定になります。

- ・ PASSWORD
- ・ Hard Disk Mode
- ・ Write Policy

4 設定項目

カーソルが移動しない項目は、参照のみで変更できません。
本項では、標準設定値を「標準値」と記述します。

MEMORY

メモリ容量を表示する

▼ Total

本体に取り付けられているメモリの総容量が表示されます。

PASSWORD

ユーザパスワードの登録 / 削除をする

☞ ユーザパスワードの登録 / 削除の方法 ☞ 「本章 2-1 ユーザパスワード」

▼ Not Registered

ユーザパスワードが設定されていないときに表示されます (標準値)。

▼ Registered

ユーザパスワードが設定されているときに表示されます。

BATTERY

バッテリーで長く使用するための設定をする

▼ Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

Full Power (標準値)	Low Power	User Settings (設定例)
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
Display Auto Off = 30Min.	Display Auto Off = 03Min.	Display Auto Off = 03Min.
HDD Auto Off = 30Min.	HDD Auto Off = 03Min.	HDD Auto Off = 03Min.
System Auto Off = Disabled	System Auto Off = 30Min.	System Auto Off = 30Min.
LCD Brightness = Bright *1 Super-Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright *1 Bright *2	LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

(注) System Auto Off (システム自動停止時間) は、「Power-up Mode」が「Boot」のときは表示されません。LCD Brightness (LCD 輝度) の表示は次の状態で変わります。

- * 1 バッテリー駆動時
- * 2 ACアダプタ使用時

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない



お願い

- ・一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

● Display Auto Off (表示自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上キーを押さない場合(マウスやアキュポイントの操作も含む)にディスプレイを消灯して節電します。画面に表示されている内容が見えなくなりますが、これは故障ではありません。

画面に表示するには、**[Shift]** キーを押すか、マウスを移動させてください。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。

● HDD Auto Off (HDD 自動停止時間)

設定した時間以上ハードディスクの読み書きをしない場合に、ハードディスクの回転を止めて節電します。

自動停止時間の設定は「01Min.」「03Min.」「05Min.」「10Min.」「15Min.」「20Min.」「30Min.」から選択します。



メモ

- ・ハードディスク装置を保護するため、「Disabled」は設定できません。

● System Auto Off (システム自動停止時間)

時間を設定すると、設定した時間以上システムを使用しない場合に、システムを止めて節電します。

「Power-up Mode」が「RESUME」の場合に設定できます。

- ・ Disabled 自動停止機能を使用しない

自動停止時間の設定は「10Min.」「20Min.」「30Min.」「40Min.」「50Min.」「60Min.」から選択します。

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPU の熱を冷ます方式を選択します。

- ・ Maximum Performance ... CPU 温度が上昇したときに、本体内にあるファンを高速回転させて CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Performance CPU が高温になったときに、本体内にあるファンが作動し CPU に風を送り、冷やします。
- ・ Battery Optimized CPU が高温になったときに、CPU の処理速度を「Low」にして温度を下げます。「Low」にしても、温度が上がる場合はファンを作動させます。



メモ

- ・ CPU が高熱を帯びると故障の原因になります。高熱状態が続く場合は、自動的にレジューム機能を効かせた状態で電源を切り、パソコンを故障から守ります。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、キーを押して選択項目を「Cooling Method」の外に移動します。

PERIPHERAL

HDD や外部装置の設定をする

▼ Pointing Devices (ポインティング装置)

アキュポイント を使用するか、外部 PS/2 マウスを使用するかを設定します。

- ・ Auto-Selected (標準値) アキュポイント または PS/2 マウスどちらか1つを使用する
PS/2 マウスを接続している場合は、PS/2 マウスだけが使用できます。PS/2 マウスを接続していない場合は、アキュポイント が使用できます。
- ・ Simultaneous アキュポイント と PS/2 マウスを同時に使用する

▼ Ext Keyboard "Fn"

外部キーボードの **[Fn]** キーの割り当てをします。

- ・ Disabled (標準値)..... **[Fn]** キーの代替えキー割り当てをしない
 - ・ Left Ctrl+Left Alt
 - ・ Right Ctrl+Right Alt
 - ・ Left Alt+Left Shift
 - ・ Right Alt+Right shift
 - ・ Left Alt+CapsLock
- これらのキーを **[Fn]** キーの代替えキーとして割り当てる

▼ USB Legacy Emulation

USB キーボード / マウスのエミュレーションを設定します。

- ・ Disabled (標準値)..... USB キーボード / マウスのレガシーサポートを行わない
- ・ Enabled レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード / マウスが使用可能になります。



メモ

- ・ この USB Legacy Emulation は、USB マウス、USB キーボードだけに適用されます。USB マウスと USB キーボードを使用する場合は、パソコンを起動する前にマウス、キーボードを接続しておく必要があります。

▼ Parallel Port Mode

パラレルポートモードの設定をします。

- ・ ECP (標準値)..... ECP 対応に設定する
大半のプリンタでは、ECP に設定します。
- ・ Std.Bi-Direct. 双方向に設定する
一部のプリンタおよび、プリンタ以外のパラレル装置を使用する場合に設定する

▼ Hard Disk Mode

ハードディスクのモードを設定します。

項目を変更する場合は、パーティションの再設定を行なってください。

- ・ Enhanced IDE(Normal)(標準値)
..... 通常はこちらを選択する
- ・ Standard IDE Enhanced IDE に対応していない OS を使用する場合に選択する
この場合、528MB までが使用可能となり、残りの容量は使用できません。

BOOT PRIORITY

ブート優先順位を設定する

▼ Boot Priority

システムを起動するディスク装置の順番を設定します。

- ・ FDD HDD CD-ROM LAN (標準値)
 - ・ HDD FDD CD-ROM LAN
 - ・ FDD CD-ROM LAN HDD
 - ・ HDD CD-ROM LAN FDD
 - ・ CD-ROM LAN FDD HDD
 - ・ CD-ROM LAN HDD FDD
- } 指定の装置順に起動する

通常は「FDD HDD CD-ROM LAN」に設定してください。



メモ

- ・ 電源を入れたときや再起動時に、次に示すキーを押し続けると、設定内容と違う装置から起動することができます。

- F** キー... フロッピーディスク装置から起動します。
- B** キー... パソコン本体のハードディスク装置から起動します。
- C** キー... CD-ROM 装置から起動します。
- N** キー... 内蔵 LAN から起動します。
- D** キー... 通常の設定された起動装置から起動します。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。

▼ Power On Boot Select

電源を入れたときに起動する装置を選択する機能を使用するかどうかの設定をします。

- ・ Enabled 使用可能にする
- ・ Disabled 禁止する

「Enabled」に設定した場合は電源を入れると「Press [F2] for the boot device selection menu」というメッセージが表示されます。[F2]キーを押して表示されるメニューから起動する装置を選択します。選択するキーは次のようになっています。

- [F] キー・・・フロッピーディスク装置から起動します。
- [B] キー・・・パソコン本体のハードディスク装置から起動します。
- [C] キー・・・CD-ROM 装置から起動します。
- [N] キー・・・内蔵 LAN から起動します。
- [D] キー・・・通常の設定された起動装置から起動します。

なお、これらのキーによって設定は変更されません。



メモ

- ・電源を入れたときや再起動時に、キーを押し続けた場合は、設定内容と違う装置から起動することができます。

DISPLAY

表示装置の設定をする

▼ Power On Display

表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値)
..... システム起動時に外部 CRT ディスプレイを接続しているときは外部 CRT ディスプレイだけに、接続していないときは本体のディスプレイだけに表示する
- ・ Simultaneous 外部 CRT ディスプレイと本体のディスプレイに同時表示する



メモ

- ・ SVGA モードに対応していない外部 CRT ディスプレイを接続して、「Simultaneous」を選択した場合、外部 CRT ディスプレイには画面が表示されません。

▼ LCD Display Stretch

内部ディスプレイの表示機能を選択します。

- ・ Enabled 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
表示モードによっては伸張しない場合があります。
- ・ Disabled (標準値)..... 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

▼ TV Config

テレビ受信機の種類を選択します。

● TV Type

- ・ NTSC(JAPAN)(標準値) ... 日本仕様のテレビ受像機
- ・ NTSC(US) 米国仕様のテレビ受像機
- ・ PAL ヨ・ロッパ仕様のテレビ受像機

● TV Output Signal

- ・ Composite (標準値) ビデオ出力のコンポジット信号を出力する

OTHERS

その他の設定をする

▼ Power-up Mode (レジューム機能)

レジューム機能を設定します。

- ・ Boot (標準値) レジューム機能を無効にする
- ・ Resume レジューム機能を有効にする

▼ CPU Cache (キャッシュ)

CPU内のキャッシュメモリを使用するかどうかの設定をします。

使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ Disabled キャッシュメモリを使用しない
 - ・ Enabled (標準値) キャッシュメモリを使用する
- 「Enabled」を選択すると「OPTION」ウィンドウが開きます。
次に「OPTION」ウィンドウの項目について説明します。

● Write Policy

キャッシュメモリへの書き込み方式を設定します。

- ・ Write-back (標準値) .. 書き込み方式を「Write-back」に設定する
キャッシュメモリにデータを書き込み、キャッシュメモリの状態に応じてメインメモリに書き込みます。
- ・ Write-through 書き込み方式を「Write-through」に設定する
キャッシュメモリとメインメモリに、同時にデータを書き込みます。

▼ Level 2 Cache

2次キャッシュを使用するかどうかの設定をします。

「CPU Cache」が「Disabled」に設定されている場合は変更できません。

- ・ Enabled (標準値) 2次キャッシュを使用する
- ・ Disabled 2次キャッシュを使用しない




▼ Processor Serial Number

プロセッサシリアル番号の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値)..... 無効にする
- ・ Enabled 有効にする



メモ

- ・ スーパーバイザパスワードでユーザパスワードモードを「Unable to show Processor Serial Number Item」()、「プロセッサシリアルナンバ - 項目の非表示」( ) に設定している場合、パソコンの電源を入れてユーザパスワードを入力したときには表示されません。

▼ Dynamic CPU Frequency Mode

- ・ Dynamically Switchable (標準値)..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、パソコンを使用中、必要に応じて自動的に切り替わるようにします。
- ・ Always High CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、高周波数で動作します。
- ・ Always Low CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、常時、低消費電力・低周波数で動作します。

▼ Auto Power On (タイマ・オン機能)



メモ





- ・ Windows 98 を使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windows のタスクスケジューラを使用してください。
- ・ タイマ・オン機能は 1 回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。

タイマ・オン機能またはリングインジケータ機能の設定状態を示します。

- ・ Disabled (標準値)..... タイマ・オン機能、リングインジケータ機能とも設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能またはリングインジケータ機能が設定されている

タイマ・オン機能とリングインジケータ機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

次に「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は  または  キーで行います。時と分、月と日の切り替えは   キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・ Disabled 時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。

「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・ Disabled 月日を設定しない

● Ring Indicator

電話回線からの呼び出し信号により、自動的に電源を入れます。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に設定できます。

また、この機能は COMMS コネクタに接続されたモデムで使用できます。

- ・ Enabled リングインジケータ機能を使用する
- ・ Disabled リングインジケータ機能を使用しない

● Wake up on LAN

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。

Wake up on LAN 機能を使用する場合は、必ず AC アダプタを接続してください。

- ・ Enabled Wake up on LAN 機能を使用する
- ・ Disabled Wake up on LAN 機能を使用しない



メモ

- ・ パスワードとレジューム機能が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、インスタントセキュリティ状態で起動します。インスタントセキュリティとは、画面表示をオフにし、キー入力 (アキュポイント、マウスを含む) もできない状態のことです。解除するには、パスワードを入力しキーを押します。
- ・ インスタントセキュリティのパスワードは、起動時に入力したパスワードを使用します。

▼ Alarm Volume

アラームの音量を設定します。

- ・ High (標準値) 大きな音でアラーム音を鳴らす
- ・ Medium High と Low の中間レベルの音でアラーム音を鳴らす
- ・ Low 小さな音でアラーム音を鳴らす
- ・ Off アラーム音を鳴らさない

「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウが開きます。

次に「ALARM VOLUME OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Low Battery Alarm

バッテリー消費時の警告音を設定します。

- ・ Enabled (標準値) 警告音を鳴らす
- ・ Disabled 警告音を鳴らさない

● Panel Close Alarm

ディスプレイが閉じられたことを知らせる警告音を設定します。

- ・ Enabled (標準値) 警告音を鳴らす
- ・ Disabled 警告音を鳴らさない

▼ System Beep

「Low Battery Alarm」「Panel Close Alarm」以外のビーブ音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) システムビーブ音を鳴らす
- ・ Disabled システムビーブ音を鳴らさない

▼ Panel Power On/Off (パネルスイッチ機能)

ディスプレイの開閉による電源の入/切を設定します。

「Power-up Mode」が「Resume」の場合に表示されます。

- ・ Enabled パネルスイッチ機能を使用する
- ・ Disabled (標準値) パネルスイッチ機能を使用しない

CONFIGURATION

▼ Device Config (デバイス・コンフィグ)

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定する

- ・ Setup by OS OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。この場合、「PC カード」内の設定は「Auto-Selected」固定となり、変更できません。
- ・ All Devices (標準値) .. すべての装置を初期化する



メモ

- ・ ブレインストールされている OS を使用する場合は、「All Devices」を選択します。

I/O PORTS (I/O ポート)

▼ Serial

シリアルポートの割り当てを設定します。

- ・ Not Used シリアルポートを割り当てない
 - ・ COM1 (標準値)
 - ・ COM2
 - ・ COM3
 - ・ COM4
- 指定のポートを割り当てる

▼ Parallel

パラレルポートの割り当てを設定します。

「Not Used」以外を選択すると、「OPTION」ウィンドウが開きます。

「OPTION」ウィンドウの項目について次に説明します。

● DMA

DMA チャンネルを設定します。

「Parallel Port Mode」が「ECP」の場合に設定できます。

PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示する

PCIバスの割り込みレベルを表示します。
変更はできません。

PC CARD

PCカードのモードを選択する

PCカードのモードを選択します。

- ・ Auto-Selected(標準値) ... Windows 98 / 2000 などの、Plug & Play に対応した OS を使用している場合、選択します。
- ・ Card Bus/16-bit Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected で正常に動作しない Card Bus 対応の PC カードを使用する場合に選択します。
- ・ PCIC Compatible Windows NT (Ver.4 以下) を使用しているとき、または、Auto-Selected や CardBus/16 bit で正常に動作しない 16 bit PC カードを使用する場合に選択します。



メモ

- ・ Windows NT モデルにインストールされている「SystemSoft CardWizard-Plus for Windows NT」がサポートしている PC カードを使用する場合は、「Auto-Selected」モードで動作します。

DRIVES I/O

HDD や CD-ROM の設定




ハードディスク装置と CD-ROM 装置のアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。
変更はできません。

FLOPPY DISK I/O

フロッピーディスク装置のアドレス、割り込みレベル、DMA チャンネルの設定を表示します。
変更はできません。

6
章システム構成と
パスワードセキュリティ

② パスワードセキュリティ

本製品では、電源を入れたとき、スタンバイ状態 ( ) / サスペンド状態 () やインスタントセキュリティ状態から復帰するときにパスワードの入力を要求するパスワードセキュリティ機能を設定できます。

パスワードには、ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードがあります。

通常はユーザパスワードを登録してください。

スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人のために用意されています。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、セットアッププログラムの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。

この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。

ユーザパスワードとスーパーバイザパスワードに関して、次の表をご覧ください。

本節では、セットアッププログラムからのユーザパスワードの設定方法、キーフロッピーディスク *1 の作成方法、スーパーバイザパスワードプログラムについて説明します。

お使いのシステム	ユーザパスワード		スーパーバイザパスワード
	設定方法	キーフロッピーディスク*1の作成	
Windows 98	・ 東芝HWセットアップ ・ セットアッププログラム 東芝HWセットアップで設定することをおすすめします。 ☞ 「5章 2-1 東芝HWセットアップ」	セットアッププログラム	スーパーバイザパスワードプログラム ☞ 「本節 2 スーパーバイザパスワード」
Windows 2000 / NT			スーパーバイザパスワード設定ツール (詳細については、アプリケーションCDをセットして表示される画面をご覧ください)

*1 ユーザパスワードを忘れてしまった場合に使用します。





メモ

- ・パスワードは、スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うものを使用してください。
- ・パスワードを登録 / 削除した後、電源を切る前にリセットスイッチを押すと、設定した内容が無効になります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「**** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none"> ・全角文字 (2バイト文字) ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など ・単独のキーで入力できない (入力するときに [Shift] キーなどを使用する) 文字 【例】 (パーチカルライン)、& (アンド)、(チルダ) など ・¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。 	

1 ユーザパスワード

ユーザパスワードの登録

セットアッププログラムからの方法を説明します。

ユーザパスワードの登録をすると、パスワード解除用フロッピーディスク (キーフロッピーディスク) を作成することができます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの 2DD または 2HD (1.44MB) フロッピーディスクが必要です。

1 セットアッププログラムを起動する

☞ 「本章 1-1 セットアッププログラムを起動する方法」

2 カーソルバーを「PASSWORD」の「Not Registered」に合わせ、**[Space]** または **[BackSpace]** キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。

パスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、パスワードを削除してから、登録してください。

☞ パスワードの削除方法 ⇨ 「本節 1- ユーザパスワードの削除」

3 ユーザパスワードを入力する

パスワードは 10 文字以内で入力します。入力すると 1 文字ごとに * が表示されます。

☞ 入力できる文字 ⇨ 「本節 - パスワードとして使用できる文字」

4 **[Enter]** キーを押す

1 回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。入力すると1文字ごとに*が表示されます。

6 キーを押す

ユーザパスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 パスワードの設定が終了したら、キーを押す

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
Insert password service disk if necessary

8 キーフロッピーディスクを作成する

次の「キーフロッピーディスクの作成手順」に従って操作してください。

セットアップの内容が正しければ、キーを押します。キーを押すと、セットアップ画面に戻ります。

● キーフロッピーディスクの作成手順

ユーザパスワードを忘れた場合に使用する、キーフロッピーディスクを作成します。

キーフロッピーディスクが必要ない場合は、フロッピーディスクをセットしないで、キーを押してください。そのまま終了します。

☞ キーフロッピーディスクの使い方

⇒ 「本節 1- ユーザパスワードを忘れてしまった場合」

フォーマット済みの2DDまたは2HD (1.44MB) フロッピーディスクをセットする



注意 ・壊されては困るデータの入っているフロッピーディスクは使用しないでください。
データが消失します。

キーを押す

次のメッセージが表示されます。

Password Service Disk Type ? (1:2HD,2:2DD)

セットされているフロッピーディスクが2HDの場合はキーを、2DDの場合は

キーを押す

フロッピーディスクへの書き込みを開始します (フロッピーディスクがセットされていない場合は、そのまま終了します)。

フロッピーディスクへの書き込みが終了すると、次のメッセージが表示されます。

Remove the password service disk, then press any key.

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押して終了する

ユーザパスワードの削除

1 ユーザパスワードの入力画面を表示する

☞ 入力画面の表示方法 ☞ 「本節 1-ユーザパスワードの登録」

2 登録してあるユーザパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

3 キーを押す

ユーザパスワードが削除されます。

入力したユーザパスワードが登録したユーザパスワードと異なる場合は、ピープ音が鳴りエラーメッセージが表示された後、パスワードの入力画面が表示されます。手順2からやり直してください。



・入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合には、パソコン本体の電源を入れ直し、再度設定を行なってください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除と再設定ができます。

また、再設定したパスワードのキーフロッピーディスクも作成できます。

キーフロッピーディスクを作成する場合は、フォーマット済みの2DDまたは2HD (1.44MB) フロッピーディスクが必要です。



・キーフロッピーディスクは、スタンバイ状態 ()、サスペンド状態 ()、休止状態 () 実行時には使用できません。これらの機能を実行したときに、パスワードを忘れてしまった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスに依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書 (お客様ご自身を確認できる物) の提示が必要です。

「Password=」と表示されたら、キーフロッピーディスクをフロッピーディスク装置にセットして、キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Set Password Again ? (Y/N)

ユーザパスワードを再設定する場合は、キーを押す

セットアップ画面が表示されます。「本節 ユーザパスワードの登録」の手順2以降を行なってください。再設定後、システムが再起動します。

ユーザパスワードを再設定しない場合は、キーを押す

パスワードが解除され、次のメッセージが表示されます。

Remove the Disk,then press any key

フロッピーディスクを取り出し、何かキーを押すと、システムが再起動します。

ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードの削除を行ってから、登録を行なってください。

☞ 「本節 1-ユーザパスワードの削除」、「本節 1-ユーザパスワードの登録」

② スーパーバイザパスワード

Windows 98 をご使用の場合の設定方法を説明します。



メモ

- ・Windows 2000 / NT の場合、スーパーバイザパスワードは「スーパーバイザパスワード設定ツール」で設定します。詳細については、アプリケーションCDをセットして表示される画面をご覧ください。
- ・スーパーバイザパスワードのキーフロッピーディスクは作成できません。

● スーパーバイザパスワードの登録 ()



メモ

- ・スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が登録されている場合は、セットアップシステム起動時のパスワードはスーパーバイザパスワードを入力してください。

1 [スタート] - [Windows の終了 (U)] - [MS-DOS モードで再起動する (M)] を選択する

[スタート] - [プログラム] - [MS-DOS プロンプト] から起動できます。

2 と半角英数字で入力し、 キーを押す プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

3 と半角英数字で入力し、 キーを押す 次の画面が表示されます。

```
SUPERVISOR PASSWORD = Not Registered
Do you want to register the supervisor password < Y/N > ?
```

4 キーを押す

スーパーバイザパスワード入力画面が表示されます。 キーを押すと、プロンプトが「C: ¥TOSSET>」に戻ります。

```
Enter Password =
```

5 スーパーバイザパスワードを入力する

スーパーバイザパスワードは半角 10 文字以内まで入力できます。入力すると、1 文字ごとに * が表示されます。

 入力できる文字 ⇨ 「本節 - パスワードとして使用できる文字」

```
Enter Password = * * * * *
```

6 キーを押す

パスワードを再度入力する画面が表示されます。

```
Verify Password =
```

- 7** 再度同じパスワードを入力し、**Enter** キーを押す
次の画面が表示されます。スーパーバイザパスワードが登録されました。

```
SUPERVISOR PASSWORD = Registered
USER PASSWORD MODE = Unabled to run SETUP
Do you want to change the setting < Y/N > ?
```

2 回目に入力したパスワードが、1 回目に入力したパスワードと異なる場合は、次の画面が表示されます。

```
Password verify error !
Do you want to retry < Y/N > ?
```

この場合、**Y** キーを押し、手順5 からやり直してください。**N** キーを押すと、登録を行わずにプロンプトが「C:¥TOSSET>」に戻ります。

- 8** ユーザパスワードからパソコン本体を起動したときの制限事項の設定を変更する

続けてユーザパスワードからパソコン本体を起動したときの制限事項の設定を変更できます。ご購入時は「USER PASSWORD MODE = Unabled to run SETUP」(ユーザパスワードで、セットアッププログラムにアクセスできない)に設定されています。設定を変更する場合は**Y** キーを押します。画面が「ユーザパスワードからの起動による制限事項の設定と解除」の手順4 の画面に変わりますので、手順4 以降を参照してください。

設定を変更しない場合は**N** キーを押し、電源スイッチを押して電源を切ってください。電源を切る前に、リセットスイッチなどで再起動した場合、登録したパスワードは無効となります。

● スーパーバイザパスワードの削除 ()

- 1** [スタート]-[Windows の終了(U)]-[MS-DOS モードで再起動する(M)]を選択する

[スタート]-[プログラム]-[MS-DOS プロンプト]からも起動できます。

- 2** **C D Space ¥ T O S S E T** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

- 3** **S V P W** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
次の画面が表示されます。

```
SUPERVISOR PASSWORD = Registered
Do you want to delete the supervisor password < Y/N > ?
```

- 4** **Y** キーを押す
スーパーバイザパスワードを入力する画面が表示されます。**N** キーを押すと、プロンプトが「C:¥TOSSET>」に戻ります。

```
Enter Password =
```

5 登録されているスーパーバイザパスワードを入力する

```
Enter Password = * * * * *
```

6 **Enter**キーを押す

入力したパスワードが正しい場合は、次の画面が表示され、登録されていたパスワード削除されます。

```
SUPERVISOR PASSWORD = Not Registered
```

入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、次の画面が表示されます。

```
Password verify error !  
Do you want to retry < Y/N > ?
```

この場合、**Y**キーを押し、手順5からやり直してください。**N**キーを押すと、削除を行わずにプロンプトが「C:¥TOSSET>」に戻ります。

入力エラーが3回続くと「Password access denied !」が表示され、プロンプトが「C:¥TOSSET>」に戻ります。この場合は、電源スイッチでいったんパソコン本体の電源を切り、再度電源を入れ直してから同じ手順で削除の設定を行なってください。リセットスイッチなどで再起動しても、削除の設定を行うことはできません。

7 電源スイッチを押して、電源を切る

電源を切る前に、リセットスイッチなどで再起動した場合、パスワードの削除は無効となります。

● スーパーバイザパスワードの変更

スーパーバイザパスワードの削除を行ってから、登録を行なってください。

☞ 「本節 2-スーパーバイザパスワードの削除」、「本節 2-スーパーバイザパスワードの登録」

● ユーザパスワードからの起動による制限事項の設定と解除 ()

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定している場合は、ユーザパスワードからパソコン本体を起動したとき、次のような制限事項を設定することができます。

セットアッププログラムへのアクセスを禁止する
セットアッププログラムの「Processor Serial Number」を表示しない
起動時の**F**、**B**、**C**、**N**キーの機能（Boot Priorityを変更して起動させる）を無効にする

1 [スタート]-[Windowsの終了(U)]-[MS-DOSモードで再起動する(M)]を選択する

[スタート]-[プログラム]-[MS-DOSプロンプト]からも起動できます。

2 **C****D****Space****¥****T****O****S****S****E****T** と半角英数字で入力し、**Enter**キーを押す プロンプトが「C:¥TOSSET>」になります。

- 3** **S****V****P****W**/**U** と半角英数字で入力し、**Enter** キーを押す
次の画面が表示されます。

```
USER PASSWORD MODE = Unable to run SETUP
Do you want to change the setting < Y/N > ?
```

- 4** **Y** キーを押す
スーパーバイザパスワードを入力する画面が表示されます。

```
SUPERVISOR PASSWORD =
```

スーパーバイザパスワードが登録されていない場合は、「Unable to change user password mode because supervisor password is not registered. (スーパーバイザパスワードが登録されていないので、ユーザーパスワードモードの制限事項を設定することはできません)」というメッセージが表示されます。

- 5** スーパーバイザパスワードを入力し、**Enter** キーを押す
現在の設定が表示され、選択項目が表示されます。

```
USER PASSWORD MODE = Unable to run SETUP
1. Able to run SETUP
2. Unable to run SETUP
3. Unable to show Processor Serial Number item.
Select Number < 1/2/3 > ?
```

1. Able to run SETUP

ユーザーパスワードで、セットアッププログラムにアクセスできる

2. Unable to run SETUP

ユーザーパスワードで、セットアッププログラムにアクセスできない

3. Unable to show Processor Serial Number item.

ユーザーパスワードで、セットアッププログラムにアクセスできるが、「OTHERS」の「Processor Serial Number」は表示されない

- 6** 制限事項を選び、**1**、**2**、**3** キーのどれかを押す
選んだキーの制限事項が表示されます。

【例】1 を選んだ場合

```
USER PASSWORD MODE = Able to run SETUP
```

- 7** 電源スイッチを押して、電源を切る
電源を切る前に、リセットスイッチなどで再起動した場合、制限事項の設定や変更は無効となります。

3 パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、電源を入れると次のようになります。

「Password=_」と表示される


画面が消えた状態になる(レジューム機能とタイマ・オン機能が設定されているとき)

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 設定したとおりにパスワードを入力し、**Enter**キーを押す

Arrow Mode  LED、Numeric Mode  LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

ユーザパスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。

 キーフロッピーディスクの使い方

⇒「本節 1- ユーザパスワードを忘れてしまった場合」



・パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

● 起動時にユーザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態や、レジューム機能を有効にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはユーザパスワードを入力してください。スーパーバイザパスワードでも起動できますが、ユーザパスワードから起動したときに受ける制限事項を設定している場合、同じように機能を制限されます。

● 起動時にスーパーバイザパスワードを入力した場合

インスタントセキュリティ状態や、レジューム機能を有効にして電源を切った場合、再びパソコン本体を起動するにはスーパーバイザパスワードを入力してください。ユーザパスワードの入力は受け付けません。